



# 第 175 号

令和元年 5 月 31 日

編集 旭川医科大学  
発行 教務部学生支援課

(題字は初代学長 山田守英氏)



「洞爺湖」

(写真撮影：医学科第 4 学年 学生)

## 平成30年度学位記授与式 学長挨拶

……学長 吉田 晃敏……	2
定年退職にあたって～P型ATPase研究の発展と生化学～	
……生化学講座(機能分子科学分野) 鈴木 裕……	17
定年退職にあたって「學而不厭、誨人不倦」	
……生命科学 林 要喜知……	19
卒業にあたって ……医学科第41期生 石原 洋……	20
卒業にあたって ……医学科第41期生 原田 なお……	21
卒業にあたって ……医学科第41期生 石田 健一……	22
卒業にあたって ……医学科第41期生 小川 莉佳子……	23
一步、前へ……医学科第41期生 高野 琢磨……	24
卒業にあたって ……看護学科第20期生 勝見 真衣……	25
大学生生活 4 年間を振り返って	
……看護学科第20期生 小泉 彩弥……	26
卒業にあたって ……看護学科第20期生 小山 貴大……	27
卒業にあたって ……看護学科第20期生 山保 瑞姫……	28

卒業にあたって ……看護学科第20期生	
フェアウェザー 未加 ケイト……	29
平成30年度 学位記授与式 ……	30
平成30年度定年退職教授による最終講義が行われました……	32
海外留学助成制度を利用して	
医学科第4学年 岡村 エミリ……	33
学部学生海外留学助成制度報告書	
医学科第6学年 祝迫 恵爾……	34
平成30年度保健師卒業セミナーを開催 ……	35
平成30年度助産師セミナーを開催 ……	36
授業評価(平成30年度後期) ……	37
卒業生の動向(医学科) ……	57
卒業生の動向(看護学科) ……	58
飲酒事故の防止について ……	59
教員の異動 ……	59
今後のスケジュール ……	60
第175号表紙 ……	60



# 平成30年度 学位記授与式 学長挨拶

旭川医科大学 学長 吉田 晃敏

医学科第41期生133名の皆さん、並びに看護学科第20期生63名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんを今日まで育てて来られたご家族の皆様のご感慨もひとしおと思ひ、重ねてお祝いを申し上げます。学年担任を始め教職に当たられた先生方、そして学生諸君といつも接してきた事務職員の方々も本当にお疲れ様でした。

また、看護学修士の学位を取得された8名の皆さん、医学博士の学位を取得された8名の皆さん、心からお祝いを申し上げます。共同研究者と苦勞を共にした努力と、その結果

生まれた皆さんの優れた研究業績に対し、深く敬意を表します。

皆さんがこの誇りある学位を次の大きなステップにつなぎ世界に発信する、より高いレベルの医療人・研究者へと成長することを強く期待しております。

学位記授与式では、今年度も「卒業生へ贈る最終講義」と題して、卒業生の6年間、4年間を振り返り、併せて修士・博士の学位を取得された皆さんに対して、私の最終講義を行いました。本稿ではその講義スライドを示します。



## おめでとうございます

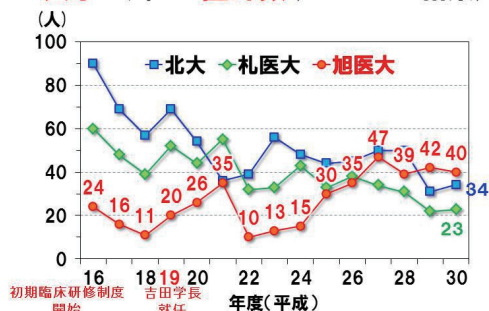
医学科	133名
看護学科	63名
医学博士	8名
看護学修士	8名

## 今年の国家試験 合格者 (新卒者)

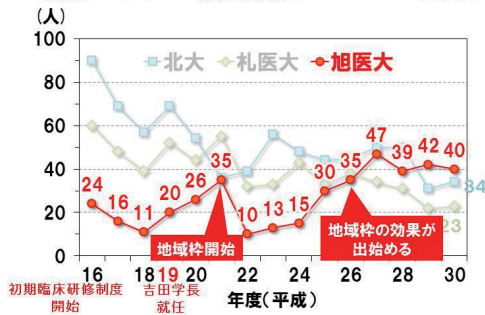
医学科	115人	➡	40人
札医大	101人		
北大	98人		
看護学科	63人	➡	29人

合格した皆さん、おめでとうございます

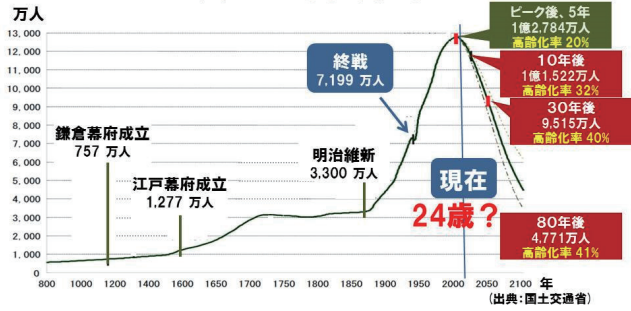
## 大学に残った医師数 (マッチング結果)



### 大学に残った医師数 (マッチング結果)



### 人口と高齢化率



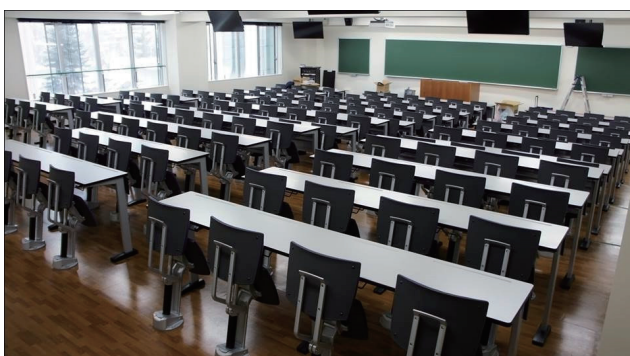
さて、本学は皆さんに、  
「6年間」・「4年間」の  
夢の舞台を提供してきた

さあ、この夢の舞台を  
「社会の動き」と共に思い出して下さい

年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	入学式					
社会	[Social activities]					



年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	講義実習棟 改修					
社会	[Social activities]					

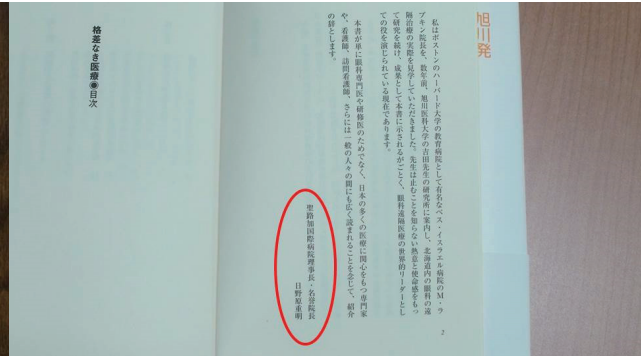
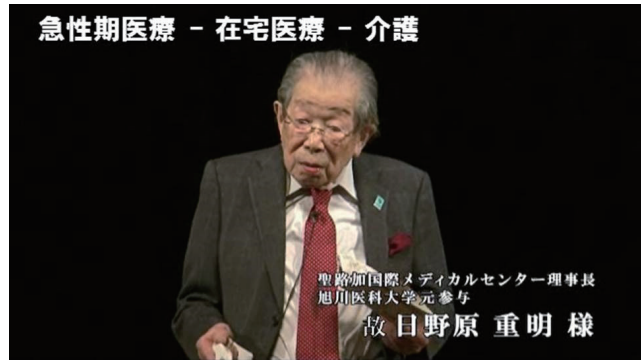


年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	開学40周年 記念式典					
社会	[Social activities]					

旭川医科大学  
開学40周年記念式典 (2013年11月5日)



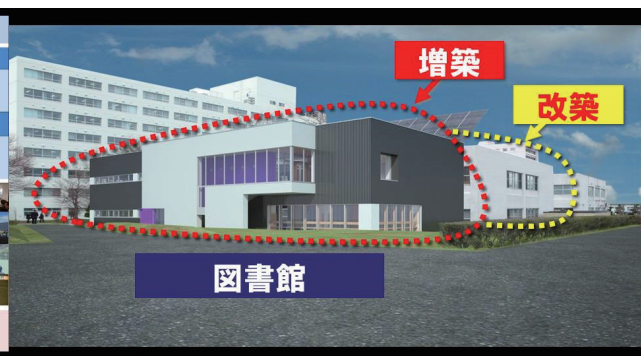
- 記念講演会
- 記念式典
- 記念祝賀会

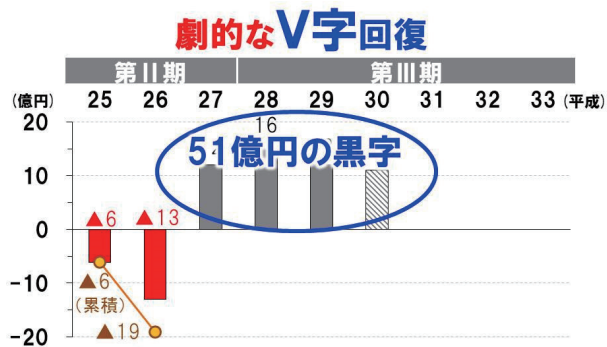
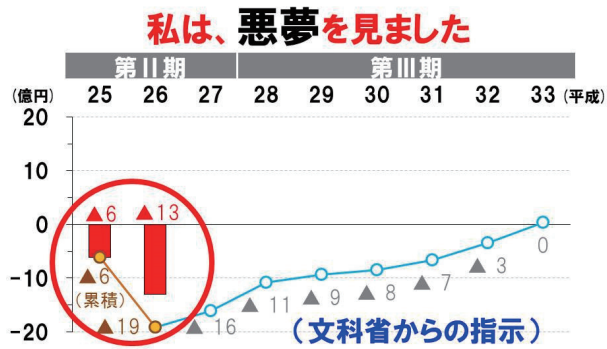
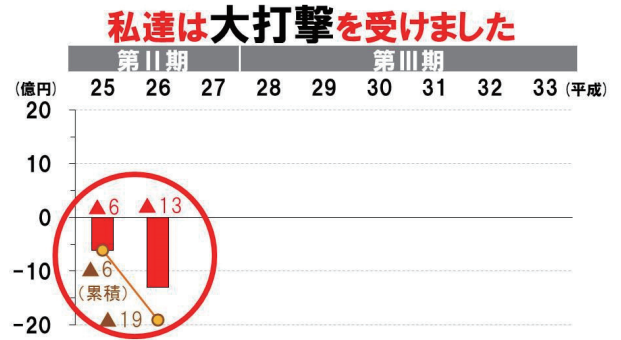
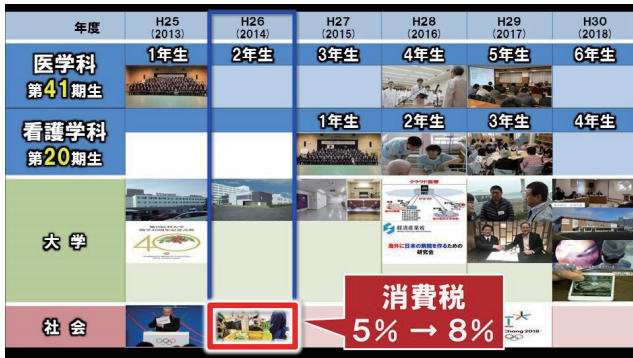


年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	40周年記念式典					
社会	東京五輪開催決定					



年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	40周年記念式典	図書館増・改築				
社会						







実験実習機器センター



臨床 2 講義室



武道館 天井

年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	40周年記念			協賛企業		
社会	社会貢献			国際交流		

白衣式



H27年度 白衣式  
医師のプロフェッショナリズム

年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	40周年記念			協賛企業		
社会	社会貢献			国際交流		

早期体験実習



看護学科 2年生

早期体験実習

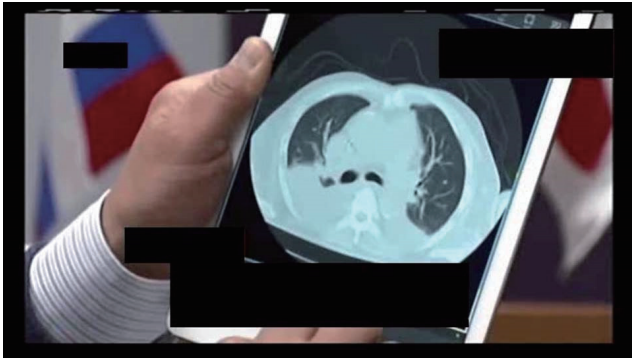
年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	40周年記念			協賛企業		
社会	社会貢献			国際交流		

『クラウド医療』を開始



クラウド医療 (遠隔医療開始24年目のヒラメキ) クラウド医療 (遠隔医療開始24年目のヒラメキ)





「クラウド医療」は、

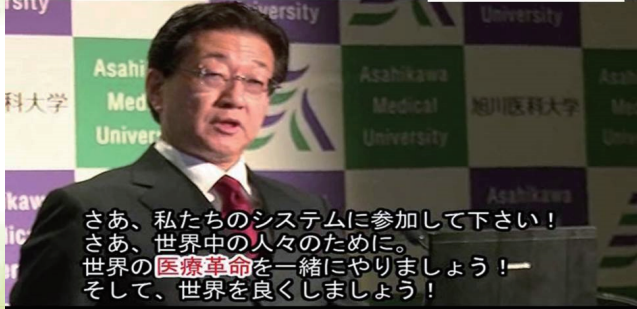
1. 医師の偏在を救う
2. 医療費を削減できる
3. ビッグ データを 集める
4. 日米、20周年の成果！

それは、

わずか  
2年3ヶ月前でした

ニューヨークで記者会見

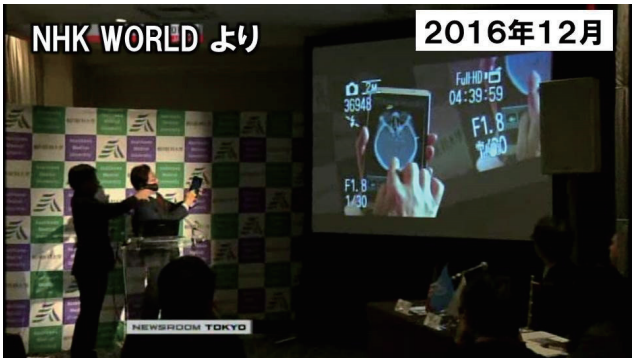
2016年12月



さあ、私たちのシステムに参加して下さい！  
さあ、世界中の人々のために。  
世界の医療革命と一緒にやりましょう！  
そして、世界を良くしましょう！

NHK WORLD より

2016年12月



NHKは、これを全世界に1日で9回放映

NHK新記録

このニュースは、この日、世界で9位

NHK新記録

ニューヨーク プラザホテルでの  
日本人の大規模な記者会見

(過去3名、外務省)

1. SONY 盛田会長
2. ソフトバンク 孫社長
3. 旭川医科 吉田学長

即座に、大きな 大きな反響が・・・

DUBAI

1ヵ月後、政府から招待！



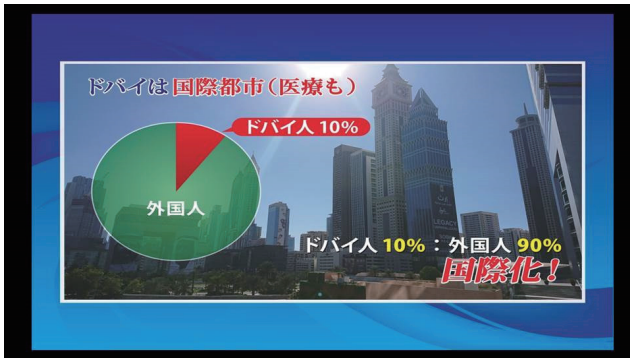
NHKニュース

旭川医大 臨床研修で  
UAEに協力へ

旭川医科大学

これまで中国やシンガポールと遠隔医療  
海外の医療機関の臨床研修に協力は初めて





年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生

「海外に病院を作る」という  
経産省の研究会に参画



## 海外に日本の病院を作るための研究会

開催概要

平成28年度 下記日程で開催  
第1回 1月7日 第1回テーマI 海外に参画する日本の医療機関の現状について  
第2回 1月22日 第2回テーマII 日本の医療拠点を海外に提供しうる機軸について  
第3回 2月2日 第3回テーマIII 海外に参画する日本の医療機関の成長戦略について  
第4回 2月23日 第4回テーマIV 国際医療機関と事業者の連携のあり方について  
研究会報告書(書)について

研究会委員

氏名	所属	役職
相川 直樹	慶應義塾大学	名誉教授
井上 秀二	伊藤忠商事株式会社	開発・調査部 開発戦略室 担当課長
濱中 通陽	双日株式会社	化学本部メディカル・ヘルスケア 事業推進室長
渡辺 泰典	豊田通商株式会社	食料・生活産業本部ヘルスケア 部長
小林 隆	丸紅株式会社	情報・物流・ヘルスケア本部 ヘルスケア・メディカル事業部長
鷲北 健一郎	三井物産株式会社	ヘルスケア・サービス事業本 部ヘルスケア事業部長
北浦 克俊	三菱商事株式会社	生活流通本部 ヘルスケア部 部長
鈴木 正信	ゼネコン	清水建設株式会社 国際支店 営業部 部長
吉成 泰	大成建設株式会社	取締役常務執行役員 医療福 祉
角 晴輝	株式会社竹中工務店	医療福祉・教育本部 本部長
三原 真	日揮株式会社	インフラ統括本部インフラプロ ジェクト本部 ヘルスケア事業部 部長
関 丈太郎	アイテック株式会社	代表取締役社長
小林 宏行	グリーンホスピタルサプライ株 式会社	専務取締役 海外本部長
長野 祐一	セコム医療システム株式会社	常務取締役
今村 聡	公益社団法人日本医師会	副会長
相澤 孝夫	一般社団法人日本病院会	副会長
大久保 清子	公益社団法人日本看護協会	副会長
北野 選也	一般社団法人Medical Excellence JAPAN (MEJ)	業務執行理事
北川 雄光	慶應義塾大学病院	副病院長 医学部外科学 教授
新井 一	順天堂大学	学長
吉田晃敏	旭川医科大学	学長
澤 芳樹	大阪大学大学院	医学系研究科長
松村 明	筑波大学附属病院	病院長
真田 正博	医療法人鉄蕉会亀田総合病 院	経営企画部長

座長	慶應義塾大学	名誉教授	相川 直樹
伊藤忠商事株式会社	開発・調査部 開発戦略室 担当課長	井上 秀二	
双日株式会社	化学本部メディカル・ヘルスケア 事業推進室長	濱中 通陽	
豊田通商株式会社	食料・生活産業本部ヘルスケア 部長	渡辺 泰典	
丸紅株式会社	情報・物流・ヘルスケア本部 ヘルスケア・メディカル事業部長	小林 隆	
三井物産株式会社	ヘルスケア・サービス事業本 部ヘルスケア事業部長	鷲北 健一郎	
三菱商事株式会社	生活流通本部 ヘルスケア部 部長	北浦 克俊	

ゼネコン	清水建設株式会社	国際支店 営業部 部長	鈴木 正信
大成建設株式会社	取締役常務執行役員 医療福 祉 <td>吉成 泰</td> <td></td>	吉成 泰	
株式会社竹中工務店	医療福祉・教育本部 本部長 <td>角 晴輝</td> <td></td>	角 晴輝	
エンジニアリング	日揮株式会社	インフラ統括本部インフラプロ ジェクト本部 ヘルスケア事業部 部長 <td>三原 真</td>	三原 真
その他	アイテック株式会社	代表取締役社長 <td>関 丈太郎</td>	関 丈太郎
	グリーンホスピタルサプライ株 式会社	専務取締役 海外本部長 <td>小林 宏行</td>	小林 宏行
	セコム医療システム株式会社	常務取締役 <td>長野 祐一</td>	長野 祐一

金融等	独立行政法人国際協力機構 (JICA)	人間開発部 次長 兼 保健第 二グループ長	渡部 晃三
株式会社国際協力銀行 (JBIC) <td>産業ファイナンス部門 産業投 資・貿易部 部長</td> <td>橋山 重人</td> <td></td>	産業ファイナンス部門 産業投 資・貿易部 部長	橋山 重人	
株式会社産業革新機構 (INCJ) <td>投資事業グループ ディレクター</td> <td>貴名 保宇</td> <td></td>	投資事業グループ ディレクター	貴名 保宇	
クールジャパン機構	専務執行役員	若井 英二	
株式会社三井住友銀行	成長産業クラスター 執行役員 ユニット長	工藤 慎子	
株式会社みずほ銀行	産業調査部 公共・社会インフラ 室 室長	川手 康司	

医療関係者	公益社団法人日本医師会	副会長	今村 聡
	一般社団法人日本病院会	副会長	相澤 孝夫
	公益社団法人日本看護協会	副会長	大久保 清子
	一般社団法人Medical Excellence JAPAN (MEJ)	業務執行理事	北野 選也
	慶應義塾大学病院	副病院長 医学部外科学 教授	北川 雄光
学長 梶	順天堂大学	学長	新井 一
	旭川医科大学	学長	吉田晃敏
	大阪大学大学院	医学系研究科長	澤 芳樹
	筑波大学附属病院	病院長	松村 明
	医療法人鉄蕉会亀田総合病 院	経営企画部長	真田 正博



## 国際遠隔医療と将来展望

旭川医科大学  
学長 吉田晃敏

## 大切なのは「教育」 (手術室) 現場実習

「十分な教育なしでは、  
海外に病院を造っても効果が小さい」



## 旭川医科大学病院 国際医療・支援センター International Medical Education Institute

## 今、「金融界の力」が必要

Medical Financial Technology (MFT)  
を「政府に提言」

年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	40周年記念					
社会	北海道新幹線 開業					



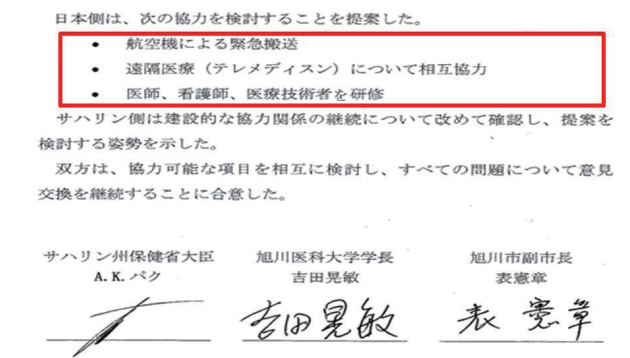
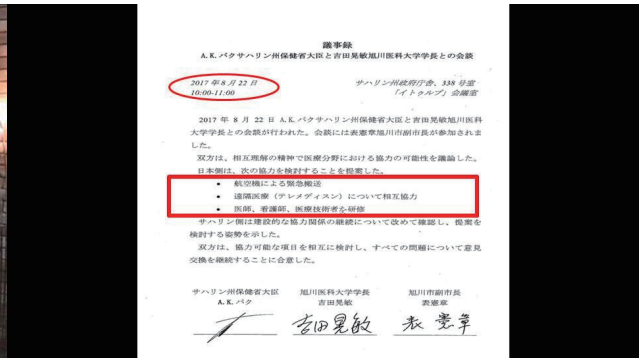
年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	40周年記念					
社会	地域枠学生懇談会					



年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	40周年記念					
社会	保健・医療・福祉 システム論					







年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	アジアとの 医療連携開始					
社会						

**IHHヘルスケア**  
IHH Healthcare Berhad

アジアで最大の病院経営グループ  
(世界2位)

シンガポール、中国、香港、マレーシア、インド、トルコ、UAE など、**50病院**

+100病院(2年以内に中国に)



年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	ピョンチャン 平昌オリンピック					
社会						

**ピョンチャン  
平昌オリンピック**

PyeongChang 2018™

メダル数: **13個**



年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	北海道・サハリン州 友好20周年					
社会						

北海道・サハリン州 友好20周年

2018年9月5日



旭川医大 吉田学長

サハリン州政府に、旭川医大を紹介



その次の日  
北海道胆振東部地震

2006年(13年前)1995年  
阪神・淡路大震災



13年前、医療情報保存の研究を完了していた  
(6億円)

後発部隊(知事、副知事、道庁幹部、旭川市長・副市長、留萌市長など)は、サハリンに來れず。

私は、高橋はるみ知事の代役をまっとうした。



サハリン州  
バク保健省大臣

年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	「緑が丘テラス」完成					
社会	[Various social activity images]					



年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生
大学	世界初 8K医療開始					
社会	[Various social activity images]					

## 医療の画質、拘りの歴史 (25年)

ISDN × 1回線	(1994年)
ISDN × 3回線	(1995年)
ISDN 光ファイバ	(1995年)
ハイビジョン	(2004年)
立体(3D)ハイビジョン	(2010年)
<b>8K + α</b>	
「見えないものを 8K + α で見て、手術をする」	

**8Kとは、壁に新聞紙を貼り、**

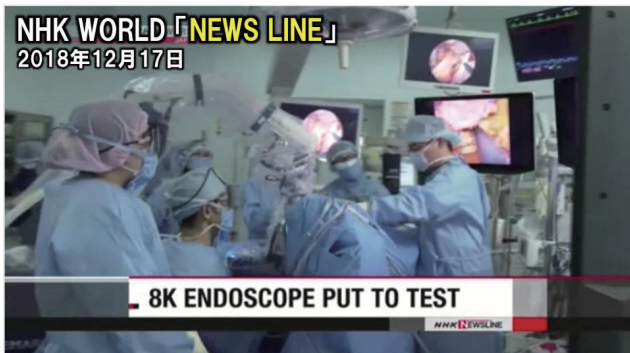


**10メートル離れたところから、  
全ての文字が見える解像度**

まだまだ「その先」がある



将来は、**8K以上に!**



年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生

**医師465人にスマートフォン配布**

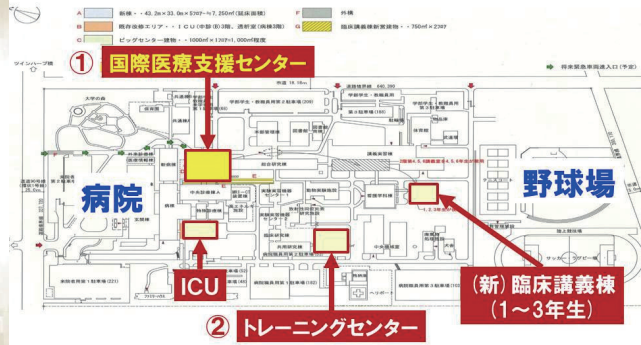


年度	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
医学科 第41期生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科 第20期生			1年生	2年生	3年生	4年生

**本学は、皆さんに [6年間・4年間] の夢の舞台を提供**

**しかし、この舞台は、今後さらに大きく進化します!**

# 旭川医大のこれから



## ① 国際医療・支援センター

International Medical Education Institute



この「支援センター」で、

- 海外から、医師、看護師、技術者を受け入れ、「高度医療」を教育
- 「日本製の」最先端機器を使い、帰国後も継続
- そのために、「クラウド医療」を海外へ普及

## ② 国際トレーニングセンター



## 国際トレーニングセンター



## 国際トレーニングセンター



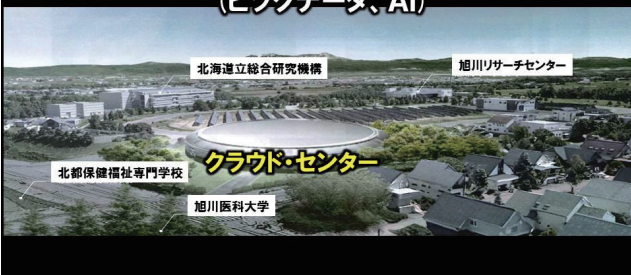
## 国際トレーニングセンター

### 1. 最先端医療技術の習得

外国人Dr 日本人Dr 学生 企業

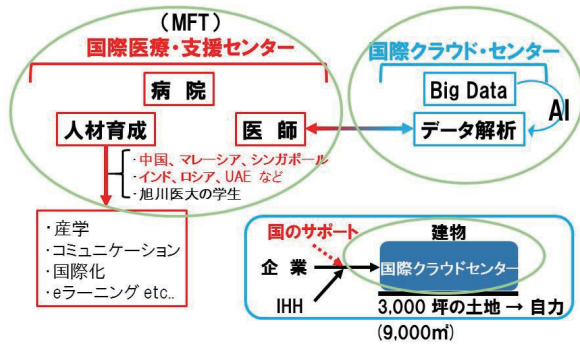
### 2. 新しい医療機器の輸出に貢献

## ③ 国際クラウド・センター (9,000㎡) (ビッグデータ、AI)



## 国際クラウド・センター

- 世界のビッグデータを集積、AIでデータ解析そして、{世界の医療情報のハブ形成}
- 「次々世代」の、戦略的医療の姿！！



さあ！今日からは、  
君達は、我々と同じ戦友です！

## 結びに

### 1.基本＜姿勢＞

決断なくして、前進なし！

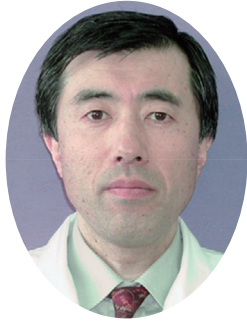
### 1.基本的な＜考え方＞

- 北海道の地域医療の「重要性」を考えつつ……
- 北海道の地域医療は、3医育大学が協調して行う事を、道、政府に主張する

諸君の益々の活躍を、  
心から期待します！

卒業、おめでとう





## 退職にあたって ～ P 型 ATPase 研究の発展と生化学～

生化学講座

機能分子科学分野 名誉教授

鈴木 裕

平成31年3月31日をもちまして退職することとなりました。1981年3月博士号取得（東京工業大学）の後、米国Boston Biomedical Research Institute（Harvard Medical School関連研究所）で約5年間研究員として平滑筋収縮制御の分子機構の研究に従事しておりましたが、ご縁をいただき1985年11月1日に生化学第二講座（現・生化学講座機能分子科学分野）に助手として赴任、その後講師、助教授を経て1999年8月1日付で教授を拝命し、計約35年間の長きにわたり本学にお世話になりました。

赴任当時の金沢徹教授（現・名誉教授）はCaポンプについて素晴らしい研究成果を積み重ねておられ、私も研究テーマをその分野に変更しました。そして教授拝命後は、その成果を基盤に「P型ATPase、主としてCaポンプの分子作動機構」および「ポンプ遺伝子異常と病態」について研究を展開してまいりました。小胞体膜や細胞膜に存在するCaポンプはATPを分解して得たエネルギーを利用して、細胞質のCaを1万倍もの濃度勾配に逆らって小胞体内腔や細胞外に能動輸送し、筋収縮・弛緩など多様なCaによる細胞機能制御に基本的役割を果たします。P型ATPaseファミリーには他に細胞膜Na/Kポンプ、胃酸分泌を担うH/Kポンプ、ゴルジ体膜Ca/Mnポンプ、Cuポンプ、膜脂質外層・内層不均一性を形成する脂質輸送フリッパーゼなどがあり、其々特異的な力チオンや脂質分子の輸送を行なっています。私どもはこれらの代表メンバーである筋小胞体Caポンプを主な材料として、ポンプ分子がどのような構造変化を起こし能動輸送を行うかその構造機序を解明し、また安定構造アナログ開発による各中間体の捕捉と特性解明を行い、さらにそれらの成果を原子レベルの解像度の結晶構造解明に資してきました。他方、Caポンプの遺伝子変異はどのような異常をポンプ分子にもたらすかを解明して、細胞分化異常（角化細胞間接着異常）、精神障害、発癌、感覚器官障害など様々の重篤な病態の発症機序を理解するための分子基盤を形成してきました。またゴルジ体膜Ca・Mnポンプの細胞分化における必須な機能についても重要な発見をすることができました。

幸運にも講座スタッフ、共同研究者である非常勤実験助手、大学院生、国内・国外からの学位取得のための留学生の皆さん、講座事務の方々、そして学外共同研究者に恵まれ、画期的発展をこの分野にもたらすことができました。生化学と構造生物学の融合によって解明されたCaポンプの構造機序はMolecular Biology of the Cellといった世界の最も代表的な教科書などにも図と共に解説されています。またその教科書には、東工大大学院生時代の平滑筋収縮制御の分子機構、すなわち平滑筋ミオシンのダイナミックな構造変化とそれによる機能制御についての発見もやはり基本的な生命機能の仕組みとして図と共に解説されており、二つの異なる分野で研究者としてたいへんに光栄な成果を得ることができました。なお、私の共同研究者の構造生物学者・豊島近教授（東京大学）は2010年朝日賞、2015年紫綬褒章、2016年スウェーデン王立科学アカデミーから結晶学分野のノーベル賞として知られる「グレゴリー・アミノフ賞（Gregori Aminoff Prize）」、さらに2018年には日本学士院賞および日本学士院賞恩賜賞を受賞されました。受賞対象となった研究はいずれも我々の開発した生化学的手法と原理、発見を駆使したものであるがゆえに、共同研究者と

したいへん喜ばしいことでもあります。最先端の研究成果を得るには、様々な新しい観点からの確固たる基盤を形成する必要があり、それらを実現できたことは本当に嬉しいことです。

他方、世界の研究者の交流を図り科学の発展に資するため、100～300人規模の国際学会を3回主催することもできました。2006年6月に京都で、2011年9月には3年に一度開催の歴史ある国際会議（第13回P-type ATPases International Meeting）をHarvard大学医・MGH（マサチューセッツ総合病院）K. Sweadner教授と共に米国カリフォルニアで、そして第15回当該国際会議を日本（大津）で主催いたしました。また第3回膜蛋白国際会議（2012年、フィレンツェ）でもkeynote lecturerとして招待講演を行い旭川医大での研究成果を紹介できました。2009年には日本生体エネルギー研究会第35回討論会および日本生化学会北海道支部例会を世話人として主催、2015および2016年には日本生物物理学会年会および日本生化学会年会でシンポジウムを企画して機能性膜蛋白研究に関する生化学・分子解剖学、分子細胞生物学、構造生物学、光学顕微鏡による1分子動態三次元解析、1分子機能解析、スーパーコンピューター京を駆使した分子動力学理論計算科学など、世界を牽引する若手研究者を集め充実した発表・討論の場を設けることもできました。

さらに、これら多くの分野における最先端の若手研究者の皆さんと共に、今後の機能性膜蛋白研究の新戦略構築のための会議を旭川医大で開催し、方針作成と共に共同研究開始など、P型ATPase分野だけでなく機能性膜蛋白全般について、日本が最先端研究を牽引し続け科学の発展を担うための基盤作りにも尽力させていただきました。

大学運営に関しましても微力ではありますが多くの重要な業務に関与させていただきました。其々嬉しく光栄に存じております。これらの活動ができましたのも本当に多くの方々の支えがあったからこそと深く感謝申し上げます。

皆様のご健勝、さらなる発展とご活躍、そして旭川医科大学のますますの発展を心より祈念申し上げ、退職の挨拶とさせていただきます。長い間ありがとうございました。



まなびていとわず ひとにおしえてうまず

## 學而不厭、誨人不倦

生命科学 名誉教授 林 要喜知

H31年3月末日をもって定年退職となりました。在職中は、歴代の学長を始め、多く教職員の方々、さらには、教育などで触れ合うことができた3600人を超える学生の皆さんには本当にお世話になり、心から感謝申し上げます。

H11年の赴任当時、看護学科棟の研究居室には机、テーブル、本棚のみしかなく、実験室もがら〜んとした状態でした。教員一人の新設学科目という状況を頭では理解していたつもりでしたが、この環境で意欲的になろうとする自分と不安な気持ちになる自分との間で葛藤がありました。

幸い、この葛藤は直ぐに払拭できました。研究では、大学からスターテイング・グラントを頂き、家族の理解も得て少しずつ研究室が整備できたからです。「実験を手伝いたい」と研究室に来て下さった学生さんも大きな力となりました。教育では、当時の生物学教授の上口先生が「協力しあつて医学科・看護学科の教育にあたりましょう」と手を差し伸べて下さいました。お陰で順調なスタートをきることができ、今日までの20年6ヶ月はあつという間でした。

ただ、私がなすべき教育、研究、大学運営、社会貢献などの仕事は必ずしも十分できたわけではなく、不完全なままで終わったものも多くあります。論語の拾い読みが趣味の一つでしたが、あの有名な一節「志学、而志、不惑、知命、耳順、（従心）」という各年代の目標にも遥かに及ばなかった思いからも、私自身の至らなさを痛感しています。

勿論、ほっとする思いもありました。それは、毎年2年生が自主制作し新生に配布する資料「裏シラバス」に書かれていたことです。学生の皆さんに阿ることはありませんでしたが、「学生と同じ目線に立とう」とする考え方は、論語の「學而不厭、誨人不倦」を努力目標とする発想からきています。そして、その姿勢が多くの学生に受け入れられてきたようです。まさに、教員冥利につきます。

研究では、科研費があまり採択されず、華々しい業績もあまりありませんでした。ただ、私の恩師が言う「凡人が研究するならオンリーワンになるべきだが、いつまでもオンリーワンであるテーマはかえって不幸である。研究に面白さがないと他の研究者が参入しないのだから！」の考えは、私にも身に染み付いています。そのため、本学で0から始めた新規神経接着分子(IgSF11)の研究が次第に広がりを見せてきたことは嬉しく感じます。また、本学赴任前から始めたインテグリンやアルツハイマー病の研究でも、他の多くの参入者にあつという間に追い越されたましたが、(自分の非力を棚にあげてあえて言うなら)「コツコツと積み上げた発見はそれなりに各研究分野の刺激になった」と懐かしく思い出されます。

最後に一言。不十分だという思いが常にあつたからこそ、何事にも創意工夫を重ねたいと考えていました。退職後ももう少しこれまでの仕事に関わってみたいという「薄くなった後ろ髪が引かれるほどの思い」もこの考えが影響しているようです。「死ぬ時には例え溝の中でも前のめりに死にたい!」といった幕末の志士坂本龍馬ほどの覚悟は全くありませんが、「老いて認知症になっても猫背で顕微鏡を覗き込みながら、前のめりになったままこの世をお暇いたしたい!」と自分の最後をイメージしています。旭川医科大学の益々の発展と皆様のご活躍・ご健勝を祈念して、私のスワン・ソングとさせて頂きます。

## 卒業にあたって

医学科第41期生 石原 洋



旭川はたいへん寒く、そして、たいへん暖かいところでありました。

長く厳しい冬が次第に明け、雪解けが始まると同時に、フキノトウがあちこちから芽を出し、辺り一面を淡い緑色にしました。農道に出ますと、針山のような一面のツクシ畑があり、これはとてもいい天ぷらのおかずになりました。

暖かくなると緑が一層濃くなり、森の中の清流に美しく映えました。透き通る川の水の中に、ヤマメ、ニジマス、アメマス、オショロコマなどの溪流魚が住み、これらを何度も塩焼きのおかずになりました。山の中を歩けば遠くの岩場にヒグマが闊歩していました。木の上にはギンザンマシコやオオルリが美しく飛んでおりましたが、これらを焼き鳥にすることは叶いませんでした。

一瞬の鮮やかな紅葉のあと、その枯れ葉が道を埋め尽くし、雪虫がヤチダモを求めて懸命に飛んでおりました。川にふと行ってみれば、海から帰ってきたサクラマスがその紅い巨体を跳ねながら遡上し、滝壺で夫婦仲良く過ごしていました。2週間後には、その巨体は命を終えて姿を見せなくなり、冬の訪れを感じさせました。

雪がふり始め、山にいけますと静寂の中にしんと雪の降る音だけがあり、その中にアカゲラがシラカバを突付く音が響きました。そして木の隙間からエゾフクロウがひょっこりと顔を覗かせます。ダイヤモンドダストが舞うほどの極寒のなかでも、エゾモ

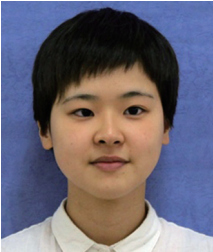
モンガが宙を舞い、エゾリスが雪を掘り返してせっせと餌を食べ、短い寿命を懸命に燃やしていました。そしてまた次の春を待つのでしょう。冬が辛く厳しいほど、春や夏がその分、うんと幸せに感じられるのだということ、この大地はダイナミックに教えてくれたように思います。

私は長い浪人生活を経てようやくと入学した旭川医大の短い学生生活の中で、できるだけ多くのことに挑戦し、そしてできるだけ多くの失敗をしよう、という気持ちを持って6年間を過ごしました。成功よりも失敗を多く経験しましたが、何千回の成功より、1回の失敗から学ぶことのほうが圧倒的に多かったように感じます。ここ旭川医大には、失敗を許容してくれる人々の暖かさがありました。お陰様で悔いのない学生生活を送らせていただきました。

本学関係者はもちろんのこと、これまでお世話になったすべての方々には心より感謝申し上げます。皆様への感謝の念を決して忘れず、そして驕らずに、医の道に精進して参ります。

## 卒業にあたって

医学科第41期生 原 田 な お



今、自分が「卒業にあたって」のメッセージを書いているのが、何よりも信じ難い。そのくらい、旭川医大で過ごした6年間は、長いようで短かった。入学式、

大学生活の厳しさを知り、何故か吹雪く慣れない帰り道をトボトボ歩いたあの日が、6年も前のことだとは…。

大学生活の思い出といえば、第一に部活動が挙がる。私はダンス部に所属し、2年生の後期から4年生の前期まで幹部として活動したが、先輩・後輩含む大人数をまとめることの難しさを痛感し、自分の存在価値を考えながら集団に身を置く術を勉強させてもらった。今思えば、これは臨床実習でのグループ行動などに活かされていただろう。またダンスに熱中し、仲間と共に練習に励んだ日々は、少し照れ臭いが、私の青春そのものだったと思う。

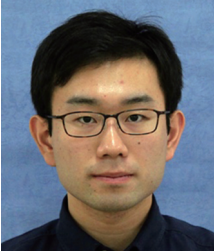
学生の本分を忘れ、4年生まで部活中心の生活を送ってしまった私から、皆さんにアドバイス出来ることは2つだけである。1つ目は、自分に合った勉強スタイルをいち早く見つけることだ。私は4年生の前半まで、短期

集中・夜型だったが、臨床実習を機にコツコツ朝型に生まれ変わった。結果としてはその方が私には合っていたようで、最後までそのスタイルを貫くことになったが、低学年の時から気付いていれば、早い段階から質の高い勉強が出来ていただろうと思う。2つ目は、仲間を大切にすることだ。某医系予備校講師も言う通り、国家試験直前期は団体戦である。個々の勉強、つまり個人戦で蓄えた力を本番で発揮するには、心身共に健康である必要があり、そのために仲間の存在が不可欠なのだ。私は週1回の勉強会で仲間と情報を共有し、特に直前期は、完全に信頼した仲間と同じ空間にいて、安心して癒され励まされていた。皆さんも、そういった仲間と共に苦難を乗り越えてほしい。

最後に、先生方や職員の皆さん、先輩、同期、後輩そして家族など、お世話になった全ての方々に、心より御礼申し上げたい。

## 卒業にあたって

医学科第41期生 石田 健一



このたび、「かぐらおか」への寄稿の機会をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

私は北海道の地域医療を支えたいという思いを抱き本学へ入学しました。本学では6年間を通じて地域医療について様々な教育を得る機会がありました。なかでも強く印象に残っているのは6年次の地域医療実習です。私は4年間の座学、1年半の臨床実習の総まとめとして6月末に斜里町へ赴きました。そこでは急性期の治療からターミナルケアまで、地域で必要とされる医療を一手に担う先生方の姿を目の当たりにしました。実際に地域医療の現場を肌で感じ、医師に求められる責任の大きさを学ぶとともに、自分の不勉強さを痛感しました。多種多様な知識と技術が求められる地域医療において少しでも役立つことが出来るようにと思い、より一層勉学に励むことが出来ました。

また、学業に限らず、部活動や行事を通じ様々な出会いがあり、そして別れがありました。その一つ一つが私を成長させてくれました。2年次に同期入学の友人との永遠の別れ

があり、その深い悲しみは今も癒えることはありません。生前、共に過ごした思い出を振り返りながら、誰よりも「他人のために」と考えていた彼の思いを受け継ぎ、彼の分まで精一杯、患者様と向き合いたいと思います。

旭川で生まれ、実家も本学に近い環境で育った私にとって、本学へ入学し医師となることは小さい頃からの夢でした。いま、6年間のカリキュラムを終え本学の卒業生となることに、言葉に出来ないほどの喜びを感じています。しかし、卒業はゴールではなく、「良き医療者」となるためのスタートラインであると考えています。この目標にゴールはありませんが、自分の一生を捧げて達成に近づけるよう精進し続ける所存です。

最後となりますが、ご指導いただきました先生方に感謝を申し上げ、また本学のさらなるご発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

## 卒業にあたって

医学科第41期生 小川 莉佳子



6年前の3月、入学試験のために初めて冬の北海道を訪れました。一面真っ白な雪景色に、同行してくれた妹と大変感動したのを覚えています。当時、一人で出かけ道に迷った妹を、見ず知らずのおばあさんがホテルまで連れてきて下さり、さらに大きなあまおうを2パックも買って下さいました。こうして幕を開けた私の旭川での6年間は、このように北海道の皆様の優しさと温かさに支えられ、楽しく充実した日々を過ごすことができました。

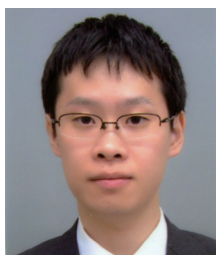
私は3年次に歯科口腔外科の先生方が毎年行っているベトナムへの医療援助活動に参加させて頂きました。その際、手術に参加させて頂いたり、ベトナム人の患者さんと関わらせて頂いたり、先生方に大変良くして頂き、優しさと温かさを持って接することで言語の壁をも超えて良い医療を提供できるのだと学ばせて頂きました。さらに、この医療支援活動をきっかけにたくさんの先生方と出会い、モンゴルなど他国での活動にも参加することができました。こうした活動により、広い視野で物事を捉えることができるようになったと感じております。

また、私は6年間ゴルフ部に所属しておりましたが、ゴルフがある程度上達し試合に出場させてもらえるようになると、ゴルフを通じて大学内だけでなく他大学の友人や、社会人のゴルフ仲間もできました。こうした皆様にも各地でゴルフに誘って頂くなど大変良くして頂き、大学生活がより充実したものとなりました。大変感謝しております。

入学当時、初めての一人暮らし、初めての北海道での生活にたくさんの不安を抱え、右往左往していた日々から比べると、この6年間でビールや日本酒の美味しさを知り、本州から訪れる家族と北海道各地を巡り、もちろんたくさん勉強もし、いろいろな世界を知ることができました。しかし、これからは医師として、また新たな世界へ飛び込んでいきます。今まで良くして下さいました皆様への感謝を忘れず、いつか皆様への恩返しができるよう、精進していく所存です。

## 一步、前へ

医学科第41期生 高野琢磨



毎年この季節になると、自分が北国にいることを実感させられます。北海道では卒業式、そして入学式が、桜色の花びらではなく、純白の名残雪によって彩られるからです。

6年前、あの入学式も、白い景色の中で行われました。入学後の研修、新歓合宿が終わるとすぐに授業と実習が始まり、レポートの締切りや定期試験など、慌ただしい中でいつの間にか時間が過ぎて行きました。学年の数字が積み重なるにつれ、習得すべき内容は単調増加を続け、果たして自分にはこの膨大な分量を消化できる能力があるのだろうか、と自信を失いかけたこともありました。そんな時、支えとなったのは常に、仲間でした。特に、ともに学び、愚痴を言い合い、そして大いに遊んだ同期たちの存在なくして、僕の学生生活は語れません。そのような素晴らしい仲間たちと臨んだ臨床実習、そして国試勉強は、とても良き思い出となっています。

もちろん、部活動も欠かせない思い出です。僕は旅と鉄道研究会（旅鉄）と、医科学研究会（医科研）に所属していました。旅鉄では国内の北は稚内、南は鹿児島まで、さらには

卒業旅行のイタリアと、鉄道・バス・フェリー・飛行機を駆使して駆け巡りました。また医科研は、医学研究や USMLE（米国医師資格試験）に興味のある学生の親睦団体であり、僕自身も解剖学講座機能形態学分野にて研究の基礎を学ばせて頂き、昨年12月には USMLE STEP1 にも無事合格させて頂きました。

いま振り返ると、入学時には想像もしなかったたくさんの思い出で6年間は彩られています。在校生の皆さん、何か挑戦してみようかと迷っていることは無いでしょうか。ぜひ皆さんの能力を、遺憾なく発揮して下さい。一步、前へと踏み出してみてください。全ては、そこから始まります。

来る4月からも、研修医として決意を新たに努力して行きたいと思います。最後となりましたが、お世話になりましたすべての皆様に心より感謝を申し上げ、結びの言葉とさせていただきます。



## 卒業にあたって

看護学科第20期生 勝見真衣



入学してこの学校で過ごした4年間の日々は、あっという間でした。受験を終え、この学校に入学することが決まった私の正直な気持ちは「これで勉強から解放された。」でした。そんな気持ちで入学した私にとっては、毎日の課題やレポートの量に驚いたのを今でも覚えています。なんでこんなにも勉強するのだろうと思い、課題には積極的には取り組むことができませんでした。しかし、2、3年生の実習で患者さんを受け持つことになり、自分が受け持ちであるにも関わらず知識や技術があまりにも未熟で自分ができることはほんのわずかであり、目の前にいる患者さんに何もできないことに悔しさを強く感じました。また、勤務している看護師さんを見てみると、今までは何気なく行われていた看護師さんの全ての行為が看護技術であること、目的があって行われていることを肌で実感し、看護という職は自身が成長し続けることでより質の高いケアが対象者に還元されることに気づくことができました。これらの経験を通して今は考えが変わり、対象者の安全を守るため、少しでもよりよい

ケアができるために日々成長して行きたいと思います。このように成長していきたいと思えたのは、実習できる環境、熱心に指導して下さいった教員の方々、夜遅くまで一緒に課題をしたり、部活で充実した時間を共有した同期、先輩や後輩、地元から応援してくれていた両親がいたからこそだと感じています。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。大学の4年間は、辛いこと、楽しいことを含めて充実した物になったと思います。

4月からは、助産師として仕事をする予定となっていますが、4年間お世話になった方々に恩返しの気持ちを忘れず、社会人として恥じないように、日々成長して行きたいと思います。また、1人1人の対象者の方と向き合い、自身を律しながら助産師としても成長していきます。

## 大学生活4年間を振り返って

看護学科第20期生 小 泉 彩 弥



入学してから早4年、多くの人に支えられ無事に卒業を迎えることができました。この4年間は勉強に部活動、バイト、遊び、ボランティアなど本当に充実した日々を過ごせたと思います。楽しいことばかりではありませんでしたが、辛いこと、大変なことも今振り替えると自身の大学生活に欠かすことのできない重要なパーツであったと感じます。

特に私の4年間の半分以上は部活動が占めていたと思います。楽しいことも大変なことも嬉しいことも悲しいことも、礼儀も、人と人との繋がり大切さも、全部硬式テニス部に学ばせて頂きました。本当に感謝しています。

入学した時には自分が保健師として働くとは思いませんでした。日々の学習や実習を通して、「地域で生活する人を支えていきたい」「病気になる前に関わりたい」と思うようになり、保健師に興味が湧きました。受け身な自分がやりたいと思うことを見つけ、その道に進むことができたのは本当にありがたいことです。

今自分が行っている一つ一つの体験が、将来どのように生きるかわかりません。勉強にとどまらず、ボランティアや先輩後輩との関わり、家族のライフイベントなど全ての自分の体験が自分を作り上げているのだと思います。なんでもやってみて経験していくことが自身を高めていく上で重要だと感じています。そうすることで新たな気づきが得られたり、同じ立場にある人へ寄り添うことができると思います。私自身、臆病な性格で、失敗することが怖く新しいことに挑戦することが苦手でありましたが、思い切ってやってみると案外うまくいったり、失敗してもそれが自分自身を成長させてくれるきっかけになりました。この記事を読んでもくれた皆さんも自分が少しでもやってみたいと思ったことは挑戦することをお勧めします。

これからは保健師として勤めますが、高校の恩師が贈ってくれた「どこに行くかよりも、そこで何をすることが大事」という言葉を胸に、自分ができることを精一杯行って行きたいと思います。最後になりますが、この4年間関わってきた全ての人に感謝申し上げます。

## 卒業にあたって

看護学科第20期生 小山 貴 大



入学してからの4年間はあっという間のものでした。これまで、バイトや部活、勉強等と忙しく楽しい日々を過ごすことができ、看護師としての心構えを身につけることができた充実した4年間でした。

私は後輩たちに伝えたいことがあります。それは、学生のうちでしかできないことに挑戦してほしいということです。勉学に励むことは学生として重要なことですが、その勉強と両立して部活やバイト、旅行などからの人生経験は無駄なものではないと思います。私もバイトや部活動、旅行を通して、先輩・後輩との関係性、他者への配慮など、人間性につながっていく経験ができたと感じます。ある日の看護技術の指導の時に、「どのような看護師になりたいですか？技術はできても相手を思いやれない看護師になりたいのか、相手を思いやることができても技術が伴わない看護師になりたいのか。技術もあり人を思いやれる看護師になりたいのか。」と、これは、看護技術の指導をしてくださった先生のお言葉です。聞いたことがある人も多いのではな

いでしょうか。単に医療者としての知識や技術を持つだけでなく、人と関わる力も大きく求められる看護師として、その力を育むためにも学生でしか培えないものがあると考えます。看護の課題や試験、実習の大変さ、それに時間をとられ、QOLの低下を訴えることもわかりますが、自分次第で学校生活は変化していきます。その変化が自分の成長につながるように、学生として得られる経験を大切にしながら、長いようで短い学生生活を楽しく過ごしてほしいです。一読してくださった後輩達が自分の目標とする看護師を目指しながら、楽しく充実した学生生活であることを願っています。

最後に、旭川医科大学での4年間、支えてくださった先輩や後輩、同期、ご指導してくださった先生方等に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 卒業にあたって

看護学科第20期生 山 保 瑞 姫



看護の道を選択し、ここ、旭川医科大学に入学した1年生の春。あっという間に時は過ぎ、ついに卒業を迎えました。

この4年間を振り返ると、ただ“楽しかった”ということだけではなく、時には“難しき”“厳しき”という壁にぶつかったこともありました。ですが、この大学生活は非常に充実したものであり、それはおそらく前述したように、様々なことがありながらもひたすらに前に向かって歩き続けた4年間であったからこそだと思います。入学してからこれまで、学ばば学ぶほどその奥深さを感じるような、“看護とは何か”という問いを考え続けてきました。実習においては、同期とともに切磋琢磨しながら過ごし、看護の難しさを感じながらも、その面白さを体験的に学んだ日々が思い出されます。そして、多くの方々に出会い関わる中で、疾患だけではなく、歩んできたこれまでの人生や価値観に触れ、患者さんからも多くのことを学ばせていただいたと思います。先生方や病棟の看護師の皆様からの助言を通して、自分の学びをさらに深め、その度にまたひとつ、自分が成長

できたと感じました。加えて、学業の面だけではなく、部活動において先輩や同期、後輩たちと過ごした時間や、たくさんの思い出も充実さというものにつながっていると思います。

私は、大学に進学してから保健師という仕事を知りましたが、講義や実習等でその魅力に惹かれ、いつの日か自分の中で保健師として働くことが目標となりました。それまで曖昧だった将来像が明確になり、今ではその思いを熱く語るができるまでになったと思います。

理想と現実は違うのかもしれませんが、自分の保健師像というものを大切にしながら、4月からは保健師として新たな一步を踏み出したいと思います。そして、また新たな出会いを大切に、さらに人として成長できればと思います。

## 卒業にあたって

看護学科第20期生 フェアウェザー 未加 ケイト



旭川医科大学に入学してからあっという間に4年がたち、無事に卒業を迎えることができました。私は将来、誰かの役に立つ仕事がしたいという気持ちから看護職に興味を持ち、旭川医科大学に入学しました。高校生の時とは異なり、入学してすぐに膨大な課題や演習が待ち受けていました。時間に追われて勉強や課題を行うことが大変な時もありましたが、毎日新たな知識や技術を学び目指している職業に近づいていることが楽しく感じることもありました。また、個人での学習だけではなく、技術の練習やグループでの発表に向けて友人と夜遅くまで話し合い、協力しながら学びを深めたことも多くありました。このように互いに意見を出し合い話し合い多角的な視点から看護を考えることは、きっと就職したのちに患者さんによりよい看護を提供することに役に立つのではないかと思います。

また、看護学実習や助産課程での実習において、患者さんを受け持たせていただき看護過程の展開やケアの実践を行いました。しかし、知識や技術の不足から自身の無力感を感

じると同時に学ばせていただいたことを無駄にせず向上心を持って取り組んでいく必要があるといつも強く感じていました。多くの患者さんに関わらせていただいたことで今の私があります。未熟な私たちを受け入れてくださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

大学生活では、友人や部活の先輩、後輩、バイト先の友人などたくさんの人に支えられてきました。図書館で夜遅くまで勉強したことや、思いっきり遊んだこと、時に弱音を吐き辛さを分かち合ったことは大学生活での宝物になっています。

最後になりますが、この4年間素敵な友人や教員に囲まれ看護を学ぶことができたことを幸せに思います。今後も自分は多くの人に支えられているということを忘れずに、一人の助産師として成長していきたいです。

## 平成30年度 学位記授与式

平成31年3月25日(月)10時30分から、本学体育館において平成30年度学位記授与式が行われ、医学科133名、看護学科63名、博士課程8名、修士課程8名にそれぞれ学位記が授与されました。

会場内には左右に大型スクリーンが配置され、学位記授与式の様子が投影されました。卒業生は、本学の室内合奏団の演奏がBGMで奏でられるなか入場し、その後、学長から学位記を授与されました。その晴れやかな姿もまた、スクリーンを通して学生生活を共にした仲間や保護者の方々と共有することができたようです。

学位記授与に引き続き、在学期間を通じて極めて優秀な学業成績を取めた学生に授与される「学業成績優秀者表彰」が行われました。医学科 高野琢磨さん、渡辺亮介さんと、看護学科 西川佳那さん、山保瑞姫さんの4名が、学長から一人ひとりに木彫りの表彰楯が授与され、共に切磋琢磨した仲間やご家族、先生方から祝福されました。

さらに、今年度も「卒業生へ贈る最終講義」と題した学長挨拶が行われ、卒業生に向けた激励のメッセージが送られました。

最後に、卒業生代表として、医学科 高野琢磨さんと看護学科 西川佳那さんから卒業生謝辞が述べられ、大学生活を振り返り、また、新社会人としての抱負を披露しました。

また、13時00分からは、本学学生食堂において祝賀会が行われ、医学科・看護学科のそれぞれの同窓会長からの祝辞をいただき、これまでお世話になった先生方やともに過ごした仲間と語り合いました。





## 平成30年度定年退職教授による最終講義が行われました

平成31年3月31日をもって本学を定年退職された先生方の最終講義が行われました。この度退職されたのは、生命科学 林 要喜知教授、生化学講座 機能分子科学分野の鈴木 裕教授の2名です。林教授の最終講義は、『旭川医科大学での20年を振り返って～教育・研究から社会貢献まで～』と題し、平成31年2月19日（火）15：30から、鈴木教授の最終講義は、『P型ATPase研究の発展と生化学～20年を振り返って～』と題し、3月15日（金）15時30分から、それぞれ看護学科棟大講義室で行われました。講義では、長年にわたる教育・研究生活を振り返りながら、想いを込めて語られました。各講義とも本学学生や教職員の他、大学関係者などが多数聴講に訪れ、思い出深い最終講義となりました。講義終了後には、感謝の意を込めて花束が贈呈され、参加者から大きな拍手が送られました。

先生方のこれまでのご尽力に、学生、教職員、卒業生一同心から感謝するとともに、今後のご健勝と益々のご活躍をお祈りいたします。

### 《林 要喜知 教授》



### 《鈴木 裕 教授》





## 学生海外留学助成金制度を利用して

医学科第4学年 岡村 エミリ



この度は学部学生海外留学助成制度に採用いただきまして、ありがとうございます。2019年2月23日から3月24日の4週間、地中海に浮かぶ小さな島国マルタ共和国に英語を学ぶために滞在させていただきました。マルタ共和国の公用語はマルタ語と英語であるので、基本的に生活の全ては英語という環境で一か月過ごすことができました。動機としては、自分に選択肢を広げるために英語を身につけたい、また一度もやってみることがないことに挑戦してみたいという気持ちがあったからです。大学受験を終えて身についた英語について考えるとコミュニケーションとして使える英語ではないと思い、スピーキングスキルを強化したいという思いもありました。

私は生まれてからずっと日本で生活し、日本の文化、日本人の価値観の中で暮らしてきました。しかしそれが私にとって心地の良いものなのかどうか、それは他のものと比較してみなければ分かりませんでした。海外旅行には何度か行ったことがありましたが、ホテルでの数日の滞在や観光地を巡るだけでは文化や価値観を体験できても、実感には至りませんでした。

渡航する以前は現地で新しいことを吸収し続ける毎日だと思っていました。しかし実際には違いました。一か月間海外で一人暮らしをするという経験の中で私が感じたことは、日本にいるときよりも日本のことを、日本語や日本での自分の生活のことを考える時間が長かったということです。特に18歳のイタリ

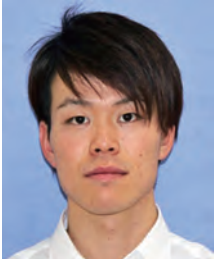
ア人フリーターから50歳代のドイツ人大学教授まで、本当に様々なバックグラウンドを持った人と話す中で意見を交流させた経験は自分の今までの人生を振り返るような感覚を覚えました。そして自分はまだまだ小さいということを再認識することができました。

また、あらためて挑戦することの大切さを学びました。挑戦することは楽しいことばかりではないですが、その過程でわくわくするような新しい発見が見つかることがあります。未知なる方へとどんどん進んでいくと、自然と自分にかけてしまっていたリミッターを外し、先入観と固定概念で歪んだ視界に違和感を感じさせるような刺激がありました。どんな小さなことにも、一見無駄に見えることにも、やってみたらどうなるのだろうという純粋な好奇心を持ち続けていたいと思います。今後は今回の経験で得たことも踏まえて、これからどんなことをしていきたいのかじっくりと考えていきたいです。

この度は学生海外留学助成金制度によって、より早く留学を実現することが可能となりました。このような貴重な機会を与您いただき、心より感謝申し上げます。

## 学部学生海外留学助成制度報告書

医学科第6学年 祝 迫 恵 爾



この度2月22日から3月25日迄の4週間、アメリカのペンシルバニア州のピッツバーグにあるUniversity of Pittsburgh Medical Centerの2カ所の病院にて見学しました。見学を希望した理由

は、移植医療が進んでいるアメリカの医療システム・移植システムを知り、自分の知見を広げることによって日本の移植医療の現状について考えることでした。大学でも臓器移植について学ぶ機会がありましたがアメリカの臓器移植の在り方を知ることによってさらに日本のものについても深く知る機会となりました。

病院内でのスケジュールとしては外来、回診、手術、カンファレンスに参加しました。正直まともに英語が喋れる、聞けるレベルではなかったのですが親切に病院の方々に対応してもらい非常に充実した時間を過ごすことが出来ました。大学で実習したことによって、相違点、共通点を見出すことが出来ました。その中でも今回は移植手術を見学することが一つの目的でありましたので、小児の肝移植手術を準備段階から術後まで見る事ができたのは貴重な経験でした。術前には黄疸が酷くぐったりとしていた子供が、手術の数日後にはすっかり顔色も良くなり、元気に笑っていました。その姿とその子の両親の姿を回診時に見るたびにこの治療に大きな意義とやりがいを感じました。しかし、本当の闘いはこれからで移植医療の3割は手術で7割は術後管理(拒絶反応など)で治療成績が決まるとおっしゃっていました。

また、カンファレンスは薬剤師、栄養士、PT、OT等多職種の方々に参加し、報告というよりは議論する場面もあり医師間だけでなくコメディカルの人たちとも綿密に治療計画が話し合われ、各職種間のすみ分けと連携が上手くなされているように感じました。移植の面においては日本にはない症例数の多さ、経験、歴史に基づいたシステムや治療計画が確

立されていました。「肝移植志願者のフレイルとサルコペニアに対する家庭での運動療法の効果」のレクチャーなどのアカデミックな面も少し見学させていただきました。和やかな雰囲気で行われており、質疑応答の時間には多くの方が反応を示しさらに議論が行われていました。本当に多くの新鮮な体験と、多くの方々との出会い、その有難さを感じることでできた1か月間でした。

最も新鮮だったのはアメリカと日本の医療システムの違いです。日本とは異なる国民性や生活背景、歴史的背景に起因しているものもあると思うのですが、医療者、患者どちらにおいてもそれを感じることが出来たのは貴重な経験となりました。日本には無い業種(Physician assistant, Anesthesia nurseなど)が存在し、良い意味でそれぞれの職域がさらにはっきりしていたように感じました。また、日本以外のことを知ることによってそれぞれの利点を知ることが出来ました。どんな規模(国、地域、個人)においてもそれぞれのニーズや考えがあり、複雑な要素が絡む中ですが、在り方を再評価しより良いものを追求することが大切なのではないかと考えさせられました。

多くの医療関係者の方々にお世話になりました。また、先生方と個人的にお会いして話を伺う機会もいただきました。どの方も非常に魅力的で学ぶことがあり、自分自身を顧みる機会となり、私にとって大切な出会いとなりました。それは今までもそうですし、これからも変わることはないと思いますが、より一層強く感じる事が出来ました。この度の留学は医療者としてだけではなく、人として今後の成長の糧となる経験をさせていただきました。今後も様々な方との御縁を大切に、これからも精進して参ります。

最後にはなりますが、今回の留学のためにお力添えいただいた古川博之先生、学部学生海外留学助成制度からの頂きました支援をはじめ、私の留学を支えてくださった多くの方々へ感謝申し上げます。

## 「平成30年度 保健師卒業セミナー」開催

この春から保健師として羽ばたく看護学科第4学年6名と、保健師という仕事に興味を持つ第1～3学年の学生を対象とした、平成三十年度保健師卒業セミナーが3月15日（金）10時30分から看護学科棟D講義室で開催されました。本セミナーの目的は、①専門職業人として就職するための心構えを持つ、②先輩後輩、保健師志望学生のネットワークを作る、③就職に関するあらゆる不安を軽減する、④保健師活動を理解し、仕事・就職活動・学習へのモチベーションを高めることです。看護学科同窓会のご協力を得ながら毎年開催されており、本年度は卒業生を含め過去最多の34名の参加がありました。

午前の部では、保健師に内定が決まった2名の看護学科4年生の学生から、保健師課程の演習・実習の流れや大変な時期を乗り越えるコツ、国家試験対策や就職活動等について報告がありました。午後の部からは、昨年4月から1年目保健師として奮闘されている本学卒業生も加わり、「1年目保健師の体験」シンポジウムが行われました。幌加内町、士別市、旭川市保健所、帯広保健所の各地で勤務されている4名の先輩方から、各自治体の地域特性や保健師1年目としてどのような業務を担当したかなどの体験談をお話いただきました。

セミナー後のアンケートでは、「4年生の話聞いて保健師コースのイメージもついたり、1年目の人の話も聞いてより具体的にイメージすることができたので、これからの学習に役立てたいです。（1年生）」、「具体的な学習内容や就職してみてもの現実を知ることができ、貴重な情報収集源となった。（2年生）」、「保健師セミナーを通して保健師になりたいという思いがより一層強まりました。保健師の実際の業務内容を知ること、苦労やギャップが沢山あることを学びました。しかし、その分、楽しみややりがいがあること、住民の生活をよりよくするためにどうしたらよいかを考えることができるという魅力も強く感じました。（3年生）」、「去年、一緒にセミナーに参加していた卒業生が1年でこんなにもいろんなことを吸収して成長している姿を見て、かっこいいなと思いました。自分も1年後、先輩方みたいになれたらいいな、なろう！と思いました。（4年生）」という感想があり、卒業生と在校生との交流を通してそれぞれに貴重な時間を過ごすことが出来たように思われます。



## 「平成30年度 助産師交流会」開催

3月15日（金）13時30分から助産師の仕事に興味を持つ第1～3学年の学生を対象とした平成30年度助産師交流会が、看護学科棟A講義室で開催されました。今回は昨年に引き続き2回目の開催ということで、看護学科同窓会のご協力のもと、本学を卒業された先輩助産師の方々やこの4月から助産師として勤務される予定の看護学科第4学年3名の参加がありました。

本交流会は、①助産師の仕事について理解を深め、学習・就職活動・仕事へのモチベーションを高める、②本学で助産師免許を取得するまでのスケジュールを理解する、③本学卒業（含予定）の先輩助産師から、本学で助産師免許を取得する上での勉学・実習をスムーズに進めるためのアドバイスをもらい、本学で助産学を選択した際に役立つ、④専門職業人として就職するための学生としての心構えを持つことができる、⑤本学卒業（含予定）の先輩後輩としてのネットワークを作るきっかけとなる、を目的としています。

最初に、本学を卒業された先輩助産師の方々から、助産師を目指したきっかけや学生時代の忙しく大変な時期をどのように乗り越えたのか、助産師として働くようになって今思うことなどを実体験に基づいてお話がありました。次いで、助産学を選択した際のスケジュールについて詳しい説明を受けた後、夏期地域医療実習に参加した3年生から実習の内容や地域における周産期医療の特徴などについてお話がありました。その後、各グループで先輩助産師の方々との茶話会が行われました。

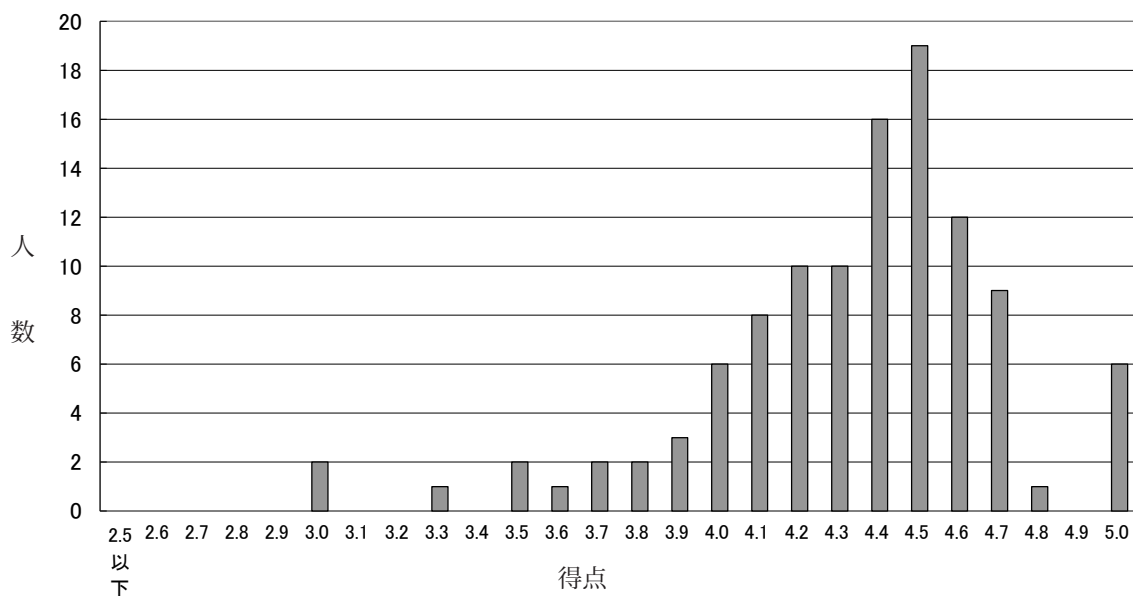
交流会に参加した学生からは、「助産師になりたいという気持ちが強くなったので、これからの勉強を頑張っていきたいです」、「前回よりもたくさんの疑問を持って参加させてもらい、その疑問を先輩方と話すことで解決することができました」、「キャリアの異なる先輩助産師の方のお話を聞くことができ、これから自分が働いてく上でどのように進んでいこうか、どこを目指していこうかを考える良い機会となりました」などの感想が聞かれ。先輩助産師からの体験談やアドバイスにより、助産師の仕事に対する理解が深まり、学習意欲が高まったのではないのでしょうか。今後も助産師を志す学生と助産師として活躍する同窓生の交流が深まるよう、この会が発展することを期待しています。



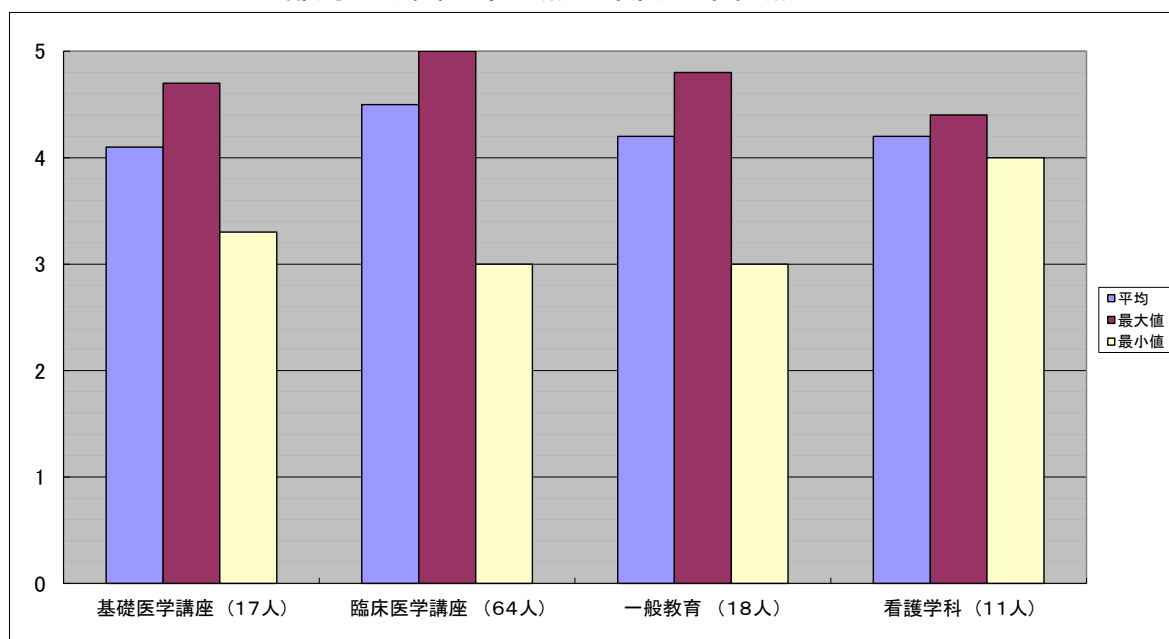
# 平成 30 年度後期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得点																									
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
						2			1		2	1	2	2	3	6	8	10	10	16	19	12	9	1		6

(実施人数110・平均4.3)



部局別教員の平均点と最高・最低点



## 講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ⑤ 強くそう思う    | (非常によい)   |
| ④ やや思う      | (良い)      |
| ③ どちらとも言えない | (普通)      |
| ② あまりそう思わない | (あまり良くない) |
| ① 全くそう思わない  | (良くない)    |

## 科目全体の講義企画に対する学生評価

あなたの履修態度について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。
	問2 授業に毎回出席しましたか。
	問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。
	問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
目的の達成	問5 科目全体の到達目標を最終的に達成することができましたか。
科目内容	問6 あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。
	問7 科目を履修することで、今後の学習意欲は増しましたか。
総合評価	問8 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強く思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：医学英語 I A (医学科第 1 学年通年／必修)

履修者数：110 配付数：110 回収数：22 回収率：20.0%

### \*評価結果 (平均)

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
3.2	4.4	4.0	3.5	3.9	4.0	3.7	4.0

### \*評価に対するコメント

医学英語 I A 担当教員

学生は授業の演習に熱心に取り組んでいました。語学という性質上、授業外の取り組みが個人のレベルアップに重要になってきます。演習で取り上げたテーマに関連する概説記事や本の紹介をしましたが、これらの文献に対するフォローアップをできたら良かったかなと思います。この点に関しては教員の課題であると評価の結果から感じています。来年度以降も専門文献の読解力の向上と読解から論文執筆への応用を見据えての英語力を高めることを期待しています。

科目名：医学英語 I B (医学科第 1 学年通年／必修)

履修者数：106 配付数：106 回収数：17 回収率：16.0%

### \*評価結果 (平均)

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
2.8	4.3	3.8	3.9	3.9	4.0	3.7	3.9

### \*評価に対するコメント

医学英語 I B 担当教員

This year's first year medical students impressed me with their focus and determination. The first year medical students appeared eager to communicate in English and have a desire to learn more. This desire to learn will prove especially advantageous in the future as they enter a world which is becoming more global. I hope their enthusiasm will continue and, as they get closer to becoming doctors, they will continue improve their English abilities.

科目名：基礎生物学（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：115 配付数：114 回収数：105 回収率：92.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.4	3.9	3.2	3.7	3.6	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

基礎生物学 担当教員

本科目は、医学の基礎となるヒトの生物学を中心に、生命現象の意義を知り、そのメカニズムを細胞レベル・分子レベルで理解し説明できることを到達目標に掲げています。小さく見える生命現象であっても、それを支えるために多種多様な細胞や分子が相互に関連し合っています。そのため、問6のポイント(3.6)が示すように、この科目の難易度を高いと感じているようですが、一方で、問3のポイント(3.9)から本科目の重要性を認識し到達目標に向かって努力している様子も伝わってきます。自由記載欄には、新しい知識に新鮮さを感じた、興味をもって聴くことができた、という意見もあり、教員として嬉しい限りです。本年度の総合評価は3.9で、昨年度(4.1)に比べて0.2ポイント減でした。本科目の内容をさらに充実させるべく、来年度も緊張感をもって授業に臨みたいと思います。

科目名：医用物理学（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：101 回収率：92.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.3	3.8	3.1	3.8	3.8	3.6	3.9

＊評価に対するコメント

医用物理学 担当教員

総合評価(問8)は昨年度より0.2上昇し、過去に頂いた最高の評価である3.9に達した。予習・復習に関する評価(問1と4)、難易度の適正さ(問6)や学習意欲(問7)の項目も一昨年度から上昇傾向にある。物理の不得意な学生にも興味を持って取り組んでもらえた結果であろう。今後は総合評価で4以上の評価を頂けるよう、更なる講義の改善に取り組む所存です。担当して頂いた先生には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

科目名：基礎化学（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：114 配付数：108 回収数：98 回収率：90.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.5	3.9	3.0	3.2	2.6	2.8	3.0

＊評価に対するコメント

基礎化学 担当教員

昨年度は一部の成績優秀学生の好意で勉強会が複数回開かれ、そのお陰で理解度を深めた学生が多かった。そのような好意的な貢献が今後も続くのであればうれしいですが、偶然に期待しても仕方ありません。ただ、この事例から容易に推察できることは、誰でも普通に勉強して講義内容を正しく理解すれば、基礎化学の単位は取得できるということです。皆さんにはまずそのことをはっきりと認識して欲しい。そして、以下のような誤解をしないよう、心がけてほしい。すなわち、「基礎化学は高校で習った内容なので、勉強しなくても単位取得できる」、「基礎化学で学習する内容は医学とは直接関係ない」教養“である(から勉強する意味がない)」、「受験勉強で身に付けた方法(術語や問題解法の暗記)で基礎化学の勉強は十分可能である」など。これらの誤解を(私たちから頻回に指導があるにもかかわらず)拭い去ることのできない学生が一人もいなくなることを願っています。根拠なく誤解に固執する前に、些細なことでも疑問点あるいは不満な点があれば、できるだけ早く、かつ何度も化学教室に足を運んで質問・確認して下さい。実際、それができた学生は基礎化学を正しく理解し、相応の結果を得ています。私たち大学教員は、講義内容を学生に理解してもらい、単位取得に必要な水準を明示することが仕事であって、皆さん個人の成績や、学習意欲の大小自体について叱責したり、批判したりすることはありません。君たちの人権は当然尊重されます。安心して、遠慮なく、気楽に教員に話かけ、教室に質問に来て下さい。君たち医学部生はとて忙しいですから、一人でやりすぎずに教員のサポートを大いに利用しましょう。

科目名：発生遺伝学（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：112 配付数：112 回収数：110 回収率：98.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.4	4.0	3.2	3.5	3.3	3.9	3.8

＊評価に対するコメント

発生遺伝学 担当教員

本科目(15コマ)は基礎教育に区分されていますが、内容は基礎医学であり、前半7コマが人体発生学、後半8コマが遺伝医学から構成されています。限られた時間の中で、発生と遺伝の基本原則と正常プロセスを学修し、それらを基盤にして先天異常や遺伝性疾患のメカニズムについての理解が求められます。後者は、高校までの学習の中でまったく触れられていない内容なので特に難しく感じたかもしれません。しかし、問2(授業への出席)、問3(理解のための努力)、問7(学習意欲の向上)のポイント(それぞれ4.4、4.0、3.9)から、学生たちが医学・医療における発生学や遺伝学の重要性を認識して自己学修に取り組んだ姿勢が見て取れます。本科目の総合ポイントは3.8でしたが、それ以上に評価されたと思っています。

科目名：分子生物学（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：118 配付数：118 回収数：111 回収率：94.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.3	3.9	3.2	3.6	3.2	3.5	3.7

＊評価に対するコメント

分子生物学 担当教員

総合評価は0.1低下したが、各問に関しては昨年度とほぼ同様の評価であった。具体的コメントでは「再試や中間試験の実施を要望する」や「教科書などを指定してほしい」という声があったので、次年度の検討課題として対応したいと考えている。学生の皆さんがMANABAをより積極的に活用できるように、今後そのコンテンツ充実をはかっていきたい。

科目名：医学英語ⅡA（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：86 回収率：72.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.2	4.0	3.3	3.9	3.8	3.9	4.0

＊評価に対するコメント

医学英語ⅡA 担当教員

医学英語の読解力を培うとともに、医学英語論文の構成に基づく読解ができるようになることを意図していました。学生のみなさんは、授業の意図を汲み、毎回の授業課題にしっかり取り組んでくれたという印象を持っています。入試経路の多様化を考慮し、課題の量を調整したため、少し物足りないといった印象を持った学生さんもいたようです。量と難易度の調整を工夫していくとともに、課題の質も向上させていきたいと思っております。

科目名：医学英語ⅡB（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：80 回収率：67.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.2	4.1	3.6	3.9	3.9	3.8	4.0

＊評価に対するコメント

医学英語ⅡB 担当教員

I appreciate the comments from the second year medical students. I was impressed with their abilities in terms of language usage. In addition the students were keen to understand more about cultures outside of Japan. As future doctors they will need this ability in international conferences and when speaking to non-Japanese doctors here in Japan. They will also need English to analyse medical journals, most of which are written in English. The second year students already have a good command of English, but I hope they will continue to improve their English abilities. I am confident they have the ability and desire to do so.



科目名：医療概論Ⅱ（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：33 回収率：27.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.3	3.9	2.8	3.6	3.8	3.8	3.8

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅱ 担当教員

毎年、予習・復習が少ない状況となっておりますが、学生の時期から倫理的な対応について学び、考え続けていくことが必要になっていきます。教科書等を読み、日ごろの医療関係のニュースにも注目して関連する領域の勉強を続けてください。

科目名：機能形態基礎医学Ⅱ（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：121 配付数：121 回収数：62 回収率：51.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.1	4.1	3.6	3.9	3.7	4.2	4.0

＊評価に対するコメント

機能形態基礎医学Ⅱ 担当教員

昨年度に比べ、問2のみ4.2から4.1に微減であったものの、他は全ての項目で評価ポイントが向上している。授業への直接評価といえる問5～8については0.3～0.6（平均0.3）ポイント向上した。特に一昨年2.6という低さであった「問6、難易度が適切だったか」のポイントが、昨年度3.1に、今年度はさらに3.7へと大幅に向上している。その要因としては、講義への出席を折に触れて督励した結果、全体で80%と昨年度の83%とほぼ同等の講義出席率を確保できた（一昨年度は43%と極端に低かった）ことと、講義項目の順序を変えて履修の効率化を図ったことが功を奏したと考えている。自由記載欄には、一部の講義配付資料がわかりにくい、また神経分野、発生分野が分量も多く難しいという例年同様の感想が目立った。2019年度においては、講義出席の督励を継続するとともに、配付資料の明瞭化、講義順序のさらなる改善などにより、より高い評価が得られるよう努める。

科目名：病理学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：124 配付数：124 回収数：65 回収率：52.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.3	4.2	3.6	3.7	3.5	4.0	3.9

＊評価に対するコメント

病理学 担当教員

今年も例年通り、講義や試験のスケジュールが過密である点についての指摘が多かった。来年も基本的にカリキュラムは変わらないが、manabaを有効に使い、講義のための予習・復習を促す工夫もしていきたい。また、講義で用いる用語がわかりにくい、ポイントがよくわからないなどの意見もあり、できるだけわかりやすい講義を目指して努力したいと思っている。アンケートの結果で、学修意欲が増した学生が多かったのは幸いである。

科目名：微生物学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：122 配付数：120 回収数：117 回収率：97.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	3.7	3.5	2.9	3.1	3.1	3.4	3.4

＊評価に対するコメント

微生物学 担当教員

「医学部における微生物学は、細菌とウイルスの性状・発症病理・臨床像・疫学・診断法・予防・治療法について学習するため、その範囲は非常に多岐に渡ります。そのため、病原細菌・ウイルスに関して、今後も自立学習をしていただきたいと思います。また、平成30年度から新たな体制で臨んだ微生物学ですが、「この科目は全体として満足できるものでしたか」の項目が、前年度と比べ上昇しました。次年度以降もスライド、図、グラフ等を用いて学生の知識欲を高める講義にしたいと考えています。」

科目名：寄生虫学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：119 配付数：117 回収数：113 回収率：96.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.2	3.7	2.8	3.5	3.6	3.6	3.9

＊評価に対するコメント

寄生虫学 担当教員

寄生虫学は多種にわたる生物の複雑な相互関係を学ばなければなりません。そのため、文章のみでは説明しづらい箇所は、図などを多用し講義を行っています。動画も多用し、また、実物の寄生虫を見てもらうことにより、より深く理解してもらうように務めています。「この科目は全体として満足できるものでしたか」の項目が3.9であり、前年度とくらべ上昇いたしました。今後も、学生の知識欲を高めるような講義にしたいと考えています。

科目名：薬理学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：119 配付数：111 回収数：63 回収率：56.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.3	3.6	2.8	3.3	3.5	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

薬理学 担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としています。少ないコマ数で、様々な疾患に使用される薬物の薬理作用を講義しているため、細かい説明が不足し、理解しにくいこともあったかもしれません。しかし、どの診療科でも薬物は使われますので、日頃から、薬物がどのようにして効いているのか考える習慣をつけて下さい。きっと役に立つと思います。

科目名：基礎医学特論（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：66 回収率：55.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.1	3.8	3.3	3.7	3.7	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

基礎医学特論 担当教員

基礎医学特論は、基礎医学講座の研究内容についてそれぞれの講師に紹介していただくオムニバス形式の講義として実施しました。講義内容が多岐にわたり、また、最新の研究内容の紹介であるため、理解が難しいのではないかと心配しましたが、講義に対する満足度は3.8で、良好な評価を頂きました。研究内容を十分に理解することは困難だと思われませんが、いろんな分野の講義を聴くことで今後の学習への刺激になれば、と思います。

科目名：医療概論Ⅲ（医学科第3学年通年／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：17 回収率：14.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.5	4.0	3.3	3.7	3.8	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅲ 担当教員

医療概論Ⅲは、医事法制、ワークライフバランス、補完医療の一つとしての漢方に対する基礎的な講義で構成されています。特に漢方については、今回の授業評価の結果から「内容にばらつきが生じている」ことが明らかになりました。講師の先生方の担当科目も異なることから、対策として、できる限り情報共有することで内容を吟味していく方針です。漢方独自の診察方法を学ぶ実習時間は、評価も高く充実する方向で検討しています。漢方は国家試験問題として出題されていることもあり、今後とも試験と出席状況で評価していく方針です。

科目名：腫瘍学1（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：16 回収率：13.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.6	4.2	3.7	4.2	4.1	4.1	4.3

＊評価に対するコメント

腫瘍学1 担当教員

回収率が13.3%と低かったため、学生評価の結果はあまり参考にならないかも知れない。来年度は学生に周知して回収率を上げる工夫が必要と考えられる。学生からの要望として、manabaへの講義資料のアップロードがあった。これに関しては、来年度から各講師にお願いしようと考えている。今後も少しずつ内容をアップデートして腫瘍学の進歩を伝えていきたい。

科目名：生体調節医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：120 配付数：114 回収数：86 回収率：75.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.1	3.8	3.2	3.8	3.9	3.9	4.0

＊評価に対するコメント

生体調節医学 担当教員

生体調節医学は、糖尿病、内分泌、腎泌尿器疾患に関して、内科学講座循環・呼吸・神経病態内科学分野、病態代謝内科学分野、泌尿器科、小児科、耳鼻咽喉科の各所属教員により開講されている。予習、復習・宿題に関する学生自己評価は、それぞれ3.1、3.2点と例年通りである。講義時間数に比し、学ぶ疾患数が多いため、自学自習が必要とされる。科目全体としての満足度は、5段階評価で、4.0点と一定の評価が得られている。

科目名：生体防御医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：121 配付数：121 回収数：85 回収率：70.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.0	3.8	3.2	3.7	3.8	3.9	4.0

＊評価に対するコメント

生体防御医学 担当教員

血液疾患、感染症、自己免疫疾患を扱う本コースは、臨床医学でも重要な位置を占める。気になるのは、予習したか？復習したか？の項目が3.3（昨年3.3）、3.2（昨年3.4）と昨年同様低いことであり、今後の学習意欲を増すか？が3.9に比べると、自発的な学習が十分でないことを危惧する。学習意欲を増せば、予習復習することにつながるのではないかと思う。

科目名：精神・神経病態医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：15 回収率：12.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.3	4.2	3.5	3.9	3.6	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

精神・神経病態医学 担当教員

精神・神経病態医学の講義は、精神医学のみならず神経内科、脳神経外科、小児科、放射線医学が協力して展開されている。学生の講義評価は概ね高く、とくに実際の症例を提示した授業は高く評価されている。今後、講義担当者による「manabaへのレジュメのアップロード」を徹底させたい。

科目名：感覚器病態医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：16 回収率：13.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.3	4.1	3.3	4.1	4.0	4.1	4.4

＊評価に対するコメント

感覚器病態医学 担当教員

本科目は、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、歯科口腔外科の4科の講義で構成されている。  
履修態度について、問2と3の評点が高い一方、問1と4の評点は低い。ぜひ予習復習の習慣を身につけてもらいたい。本年度は評価の回収率が低く、例年との比較は難しいが、本科目は各講義の専門性が高く、教官が工夫しているが、問6、7、8の4点超は高評価を得たと思う。  
寄せられた意見について、「講義数と内容」は医師国家試験出題基準に沿って各科で構成していること、「4科別々の出欠票」は成績判定時の到達度評価に必要なことを理解いただきたい。「やむを得ない欠席」については対応を協議するので各自で申請をすること。

科目名：生殖発達医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：12 回収率：10.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.8	4.2	4.4	3.7	4.2	4.3	4.6	4.6

＊評価に対するコメント

生殖発達医学 担当教員

受講者数 120、配布数 120、回収数 12（回収率 10%）であった。  
回収率は低いです、その中で、「学習意欲が増加したか」と「全体として満足できたか」の質問に対する、評価の平均値がどちらも 4.6 と高値であった事は、教官側としては嬉しく受け止めているところです。

科目名：臨床遺伝学コース（医学科第3学年後期／選択必修）

履修者数：14 配付数：14 回収数：4 回収率：28.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.8	4.5	3.5	4.5	4.0	4.8	4.5

＊評価に対するコメント

臨床遺伝学コース 担当教員

臨床遺伝学は、講義はできるだけ少なくしており、情報の収集、伝達の方法について、患者さんの立場と医師の立場を経験できるよう構成されています。ロールプレイセッションでは、医療面接での Bad News の伝え方から始まり、患者さんのオートノミーに配慮した医療面接のあり方を体験してもらっています。それ以外には、家系図の書き方や遺伝情報の調べ方などの演習を組み合わせています。  
「能動的に学習できるスタイルが良かった」「こういう感じの授業を多くしてほしい」などのコメントをいただき、今年の評価は昨年度の 4.4 と変化のない 4.5 をいただきました。

科目名：生体構造機能蛋白・病態解析コース（医学科第3年後期／選択必修）

履修者数：86 配付数：86 回収数：8 回収率：9.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.4	4.1	3.3	4.0	4.1	4.0	4.3

＊評価に対するコメント

生体構造機能蛋白・病態解析コース 担当教員

問8の総合評価では4.3をいただきました。科目内容では問6で示した難易度で4.1、問7で示した学習意欲は4.0と評価をいただきました。これからも難解な内容については写真やイラストなど授業内容に工夫を重ね、学習意欲が高まるように配布資料や授業方法の改善に取り組みます。また病態に関わる先端的データなどを紹介して学生の興味を高めるように努力いたします。

科目名：救急・プライマリーケアコース（医科第3学年後期／選択必修）

履修者数：20 配付数：20 回収数：19 回収率：95.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.9	4.6	4.3	4.3	4.4	4.8	4.8

＊評価に対するコメント

救急・プライマリーケアコース 担当教員

本コースは、3学年を対象に少人数で、できるだけプラクティカルな講義と、参加者自身が自分で考える機会を設けることを主旨として行っております。例年希望者が多く20名限定ということで設定し、今年度もプライマリーケアの基礎知識と実際に学ぶことができたという、非常に高い評価を頂きました。

今後も、実践的な診療・処置の習得を主眼に、より中身の濃いものにしていきたいと考えております。

科目名：睡眠医学コース（医学科第3学年後期／選択必修）

履修者数：25 配付数：25 回収数：3 回収率：12.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.0	4.7	4.3	3.7	4.7	4.3	4.7	4.7

＊評価に対するコメント

睡眠医学コース 担当教員

近年、学生の睡眠医学への関心が高まっている。本コースのような睡眠医学の系統だった教育は全国医学部において稀有であり、また、学生からきわめて高い授業評価を得ている。今後、さらに洗練された内容の講義を展開することを目指したい。

科目名：感覚器医学の最先端コース（医科第3学年後期／選択必修）

履修者数：87 配付数：87 回収数：11 回収率：12.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.3	4.0	3.3	3.8	3.7	4.0	4.0

＊評価に対するコメント

感覚器医学の最先端コース 担当教員

感覚器医学の基礎・臨床、そして最先端まで各領域の専門科が講義した。学生による評価では、学習意欲と総合評価では例年とほぼ同様であったが、難易度に関する評価のスコアが低く、学生が理解できるような工夫が必要と思われた。今年からレポート用のテンプレートを配布したのは高評価だった。今回は評価表の回収率が13%と低く、学生の講義に対する意識改革も必要と感じられた。

科目名：EBM・CPC コース（医科第3学年後期／選択必修）

履修者数：8 配付数：8 回収数：6 回収率：75.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.7	4.2	4.2	4.3	4.2	4.3	4.5

＊評価に対するコメント

EBM・CPC コース 担当教員

開講し14回目を迎えた。前半をEBMコース、後半をCPCコースで構成し、即臨床実習？研修で役立つ生きた知識？考え方を習得出来るよう心がけた。本年度の選択者は8名と例年同様少数であったが皆学習意欲が強く、個々の学生へ対応を密に行うことが出来、各自が積極的に取り組み順調に進んだ印象である。総合評価は4.5点で満足できるものであり、来年以降も同様な構成でコースを進める。

科目名：臨床薬理学コース（医科第3学年後期／選択必修）

履修者数：21 配付数：21 回収数：10 回収率：47.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.2	3.9	2.8	4.0	3.9	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

臨床薬理学コース 担当教員

臨床薬理学は、第2学年で学習した基礎薬理学の原理を、臨床に応用する際に必須となる分野である。本コースでは、その理解のために、薬物の投与法から薬物療法の問題点に至るまで、臨床の各分野で御活躍の先生に、その専門分野の講義を行って頂いた。今後も各科の先生に御協力頂き、さらに臨床薬理学の理解に寄与するコースにしていきたいと考えている。

科目名：ニューロサイエンスコース（医学科第3年後期／選択必修）

履修者数：40 配付数：21 回収数：12 回収率：57.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.3	4.8	4.2	2.8	3.4	3.8	3.8	4.2

＊評価に対するコメント

ニューロサイエンスコース 担当教員

ニューロサイエンスコースの講義内容は、なるべく神経科学に関する最先端の内容で構築するように気をつけていました。その結果、学生の皆様からは最先端の話を知ることができたと言う大変好評な評価を得ることができました。今後も最先端の神経科学を進めていきたいと思っておりますので、皆さんの希望があればぜひ学生課を通じ希望を伝えてください。一緒にこの講義を作っていけることを楽しみにしています。

科目名：糖尿病・内分泌 Up-Date コース（医学科第3年後期／選択必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：9 回収率：15.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.7	4.3	4.2	4.7	4.4	4.4	4.4

＊評価に対するコメント

糖尿病・内分泌 Up-Date コース 担当教員

「糖尿病・糖尿病・内分泌 Up-Date コース」は、糖尿病・内分泌疾患に関連した最先端医学知識を、解剖学、生化学、薬理学、内科学、小児科学、産婦人科学、泌尿器科学、整形外科科学、眼科学、臨床検査医学の多角的視点から学習する。回収率は低かったが、事前予習について3.4点、復習について4.2点、科目構成・科目内容及び総合評価は其々4.4点以上といずれも評価が高く、講義企画に対して一定の評価は得られている。

科目名：英語 I A（看護学科第 1 学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：48 回収率：80.0%

＊評価結果（平均）

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
3.5	4.0	3.6	3.3	3.7	3.8	3.2	3.7

＊評価に対するコメント

英語 I A 担当教員

全体的に授業での演習に熱心に取り組んでいました。今年度は演習に使う英文の語数を増やしたこともあり、最初は大変だったと思いますが、後半は読解のスピードも上がっていました。しかし、授業外で英語に触れる機会を増やせなかったことは教員の側からも改善すべき点であると考えています。また、扱うテーマの工夫やグループワークをもっと取り入れていくべきだとも感じています。来年度以降も英語力を高めることを期待しています。

科目名：英語 I B（看護学科第 1 学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：48 回収率：80.0%

＊評価結果（平均）

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
3.2	4.0	3.6	3.3	3.4	3.5	3.2	3.5

＊評価に対するコメント

英語 I B 担当教員

I appreciate the positive comments written by the first year nursing students. This year's class of nursing students worked hard and were enthusiastic. Learning English requires students to be actively involved in class activities and everyone did their utmost when participating in pair work and group work activities. There are many opportunities in the field of health care which can only be realized by acquiring English proficiency. I hope the first year nursing students will continue to work hard and improve their English skills as they move towards graduation.

科目名：形態機能学（看護学科第 1 学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：18 回収率：30.0%

＊評価結果（平均）

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
3.1	4.8	3.8	3.3	3.4	3.4	4.1	3.8

＊評価に対するコメント

形態機能学 担当教員

全体的な学生評価は例年に比べやや低調となった。ただし、manaba 経由での評価のため極端に回答率が低かったこと、回答の傾向はこれまでと変わらないことから、特に評価が下がったとは考えていない。講義内容については一部の講義で難易度が高すぎるとの声があった。講義内容の難易度についてはこれまでも常に問題となっている事案であり、引き続き検討を重ねていきたい。

科目名：代謝栄養学（看護学科第 1 学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：17 回収率：28.3%

＊評価結果（平均）

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
2.9	4.4	3.8	3.2	3.8	4.2	4.2	4.3

＊評価に対するコメント

代謝栄養学 担当教員

各問のスコアは昨年とほぼ同じで、難易度など含め適切な内容であったと思われます。次年度も本年度同様、わかりやすい講義・構成を心掛けたいと思います。

科目名：感染免疫学（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：19 回収率：31.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.6	4.3	3.2	3.8	3.8	4.3	4.5

＊評価に対するコメント

感染免疫学 担当教員

本年度は難易度に関するスコア・全体的な満足度について、昨年と同程度の評価でした。昨年と同様に、manaba を利用した質問コーナーなどが、“良かった”との声があり、manaba の効果を確認できました。次年度から、免疫学の部分は、病理学総論と生化学に移りますが、今後も改善を加え、より良い教材を提供していこうと思っています。

科目名：健康教育論（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：16 回収率：26.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.6	3.8	3.3	3.8	3.7	3.6	3.9

＊評価に対するコメント

健康教育論 担当教員

健康教育論は、患者様に対する指導対応などで必要な知識と技術を教える教科です。そのため臨床現場での実習経験がないと、なかなか実感がわかなかつたのではないかと思います。次年度からカリキュラムのシステムが変更になり、本科目は2年生で受講することになります。講義で実際の状況を想定した取り組みもおこなえるように広義内容の改善を図る予定です。

科目名：臨床心理学（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：16 回収率：26.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.4	3.9	3.2	3.8	4.1	3.9	4.2

＊評価に対するコメント

臨床心理学 担当教員

授業評価には、予習・復習を促すことが出来ていないことが示されています。この点に関しては今後の課題としたいと考えています。授業の内容に関しては、難易度は適切で、ある程度興味を持って学習して頂ける内容であったとも読み取れますので、この内容をベースに、更に精練、充実したものに出来るよう工夫したいと思います。

科目名：対人関係論（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：20 回収率：33.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.5	3.7	3.5	3.9	4.3	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

対人関係論 担当教員

全体評価から概ね履修目的に到達する授業はできたと考えますが、項目別の評価においてばらつきがあり、特に予習・復習の自己学習面が低い傾向にありました。対人関係は知識面の自己学習は難しいと思われ、次年度に向けて態度・技能側面を高める自己学習ができるような課題の提示をしていきます。



科目名：地域看護学（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：59 回収率：98.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.3	3.7	3.1	3.8	4.1	4.1	3.9

＊評価に対するコメント

地域看護学 担当教員

地域社会における生活、暮らしを大切にしたい看護とは・・・を考え「地域医療に貢献できる看護職となれるよう、さらに、看護の勉強を深めたい」という感想が多くみられました。これも、ひとえに学生の皆さんが主体的に学習に取り組み、地域看護が行われている施設を訪ね、経験豊富な看護職の皆さんから貴重な学びをさせていただいているお陰と感謝しています。

科目名：英語ⅡA（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：59 回収率：98.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.6	4.2	3.7	3.7	3.6	3.6	4.0

＊評価に対するコメント

英語ⅡA 担当教員

受講者が各自のペースで課題に取り組み確認テストを受験することにより学習到達度を確認する授業スタイルに変更して3年目となりました。今年の受講者も非常に熱心に課題に取り組み、計画的に学習していたと思います。その一方、課題の難易度が高いと感じた受講者もいたようです。来年度は学習内容の理解が深まるような工夫をしたいと思います。

科目名：英語ⅡB（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：51 回収率：85.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.9	4.5	4.1	3.9	3.9	3.7	3.6	3.9

＊評価に対するコメント

英語ⅡB 担当教員

I am glad that most nursing students seemed to enjoy English, and to find our class of value. For nurses, English is not the most important subject, but English ability is certainly an asset for health care professionals. It is a privilege to teach future nurses. Nursing is an essential and noble profession, and nurses are very special people. I understand this well, because there are many nurses among my own family and friends. When people hear that you are a nurse, they know immediately that you are intelligent, hard-working, dedicated, kind, and trustworthy. I hope that each of our students will become the best nurse he or she can be, and be proud to wear the title "nurse".

科目名：薬理学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：58 回収数：43 回収率：74.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.3	3.5	2.7	3.4	3.1	3.6	3.7

＊評価に対するコメント

薬理学 担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としています。非常に少ないコマ数で、様々な疾患に使用される薬物の薬理作用を講義しているため、進行スピードが速く、細かい説明が不足し、理解しにくいこともあったかもしれません。これから履修する学生は、講義中の理解を深めるために予習を心がけてください。しかし、どの診療科でも薬物は使われますので、日頃から薬物がどのようにして効いているのか考える習慣をつけて下さい。きっと役に立つと思います。

科目名：疾病論Ⅰ・Ⅱ（看護学科第2学年前期・後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：24 回収率：40.0%

＊評価結果（平均） 疾病論Ⅰ

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.5	4.0	3.2	4.0	4.0	4.4	4.5

履修者数：60 配付数：60 回収数：17 回収率：28.3%

＊評価結果（平均） 疾病論Ⅱ

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	3.9	4.3	3.6	3.9	3.9	4.2	4.1

＊評価に対するコメント

疾病論Ⅰ・Ⅱ 担当教員

本年度は、前年同様の講義順序で、中間テストを施行しませんでした。全体の満足度の評価は、例年同様でした。ほぼ適正な企画であったと考えています。次年度も本年度同様の充実した内容を企画したいと思います。

科目名：公衆衛生論（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：21 回収率：35.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.7	3.8	3.5	3.8	3.8	3.5	3.6

＊評価に対するコメント

公衆衛生論 担当教員

本講義科目は、医療従事者に共通する疾病予防に関わる重要な内容が含まれております。看護師等の国家試験にも高い割合で出題されますので、幅広い内容に対して網羅的に知識を蓄えておく必要があります。講義では時折時間が遅れるなど、学生に迷惑をかけてしまいましたが、次年度以降準備に余裕を持って対照するようにしたいと思います。

科目名：看護倫理（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：16 回収率：26.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.9	4.7	4.4	4.3	3.9	3.9	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

看護倫理 担当教員

この科目はグループワーク、チームカンファレンスといった学習方法を用い、事例を通して看護倫理について学習するものであり、自分の意見を持ちながら他者の意見を聞き、最善の解を求めるといったプロセスを重視しました。回収率がこちらも3割未満ではありますが、満足度は4.2であること、欠席者が少なかったことである程度の目標達成はできたと評価します。

科目名：看護理論（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：18 回収率：30.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.3	4.6	4.3	4.4	3.8	3.7	4.0	4.4

＊評価に対するコメント

看護理論 担当教員

ピアレクチャーを中心としながら、看護実践への活用を目指して看護理論を学習することで、多くの学びを得たことと思います。回収率は3割と少ないのですが、満足度は4.4、予習・復習も4.3と積極的な学習になっていました。プレゼンテーションについてはグループ内での知識・発表内容の共有が不十分なものもありました。全員が役割を果たし、お互いの学びを促進できるように取り組んでいくことを期待します。

科目名：成人看護学Ⅰ（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：18 回収率：30.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.7	4.3	4.3	3.9	3.9	4.2	4.1

＊評価に対するコメント

成人看護学Ⅰ 担当教員

今年度の成人看護学Ⅰの授業評価では、事前学習の点数が3.6と他の項目に比べて低いものの、例年3点前半なので、今年度の学生は、予習の習慣がある方が例年より多かったのかもしれませんが、回収率が30%と低いです。今後の学習意欲(4.2)・満足感(4.1)とはほぼ例年と同じ評価が得られていたので、講義企画に対する学生の意欲・満足感は例年通りだったのではないかと思います。

科目名：小児看護学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：23 回収率：38.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.6	4.3	3.8	4.1	4.4	4.3	4.5

＊評価に対するコメント

小児看護学 担当教員

講義企画に対する学生評価は4.0前後であり、学生にとって概ね満足のいく授業であったと考えます。授業資料や教科書の活用、試験問題などに関する意見があり、来年度以降の授業改善に取り組んでいきたいと思っています。授業では教員の臨床での体験談を交え、小児看護の重要性や醍醐味、子どもの素晴らしさを伝えました。それに関しては高評価を受けましたので、今後も続けていきたいと思っています。

科目名：高齢者看護学Ⅰ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：9 回収率：15.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.9	4.4	4.3	4.5	4.3	4.3	4.3	4.4

＊評価に対するコメント

高齢者看護学Ⅰ 担当教員

予習・復習に関する項目以外は、4点台であり、全体としての満足度は4.4点と高かった。しかし、回収率が15%と低く、学生全体の評価を反映しているとはいえないので、これ以上のコメントは差し控えたい。

科目名：母性看護学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：56 回収数：45 回収率：80.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.6	4.1	3.9	3.8	3.8	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

母性看護学 担当教員

本科目に対する学習意欲や満足度は4点台で昨年とほぼ同様であり、評価は良好と判断した。次年度も学生の学習意欲が高められるよう、母性領域の興味を引き出し、基礎的な知識の充足をはかる。予習や復習のポイントは3点台と低く、特に予習による学習準備状態は改善点と評価した。復習はもちろん、予習に取り組みやすい課題の工夫を検討し manaba を引き続き活用していく。

科目名：精神看護学Ⅱ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：16 回収率：26.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.5	4.0	3.9	3.9	3.9	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

精神看護学Ⅱ 担当教員

この授業は、精神疾患の基本的知識を押さえながら、学生が看護の在り方について考え、3年生の精神看護学演習や臨地実習に応用されていくことを狙っています。そのため、知識量がやや多く、詰め込むような印象をもった学生も存在したと振り返ります。ただし、予習・復習の時間は確保していますので、学生に対しても日々の積重ねの意識はもって欲しいと思います。学習を積み重ねられるようなワークブック形式のシラバス等の開発なども検討していこうと思います。

科目名：看護研究Ⅰ・Ⅱ（看護学科第3学年通年／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：12 回収率：20.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.5	3.3	3.6	3.5	2.9	3.3	3.1

＊評価に対するコメント

看護研究Ⅰ・Ⅱ 担当教員

授業については昨年度のコーディネーターが中心となって進めておりましたが、全体的に学生の要求を満たすことができないところもあったかと思います。看護研究は卒業研究にも必要であり、また卒業後も看護業務に関わってきますので、内容を改善しつつ講義を充実させていきたいです。看護研究では看護学科のほとんどの教員が研究計画書の作成を指導しておりますが、なかなか教員の要求レベルにも差があるのでは、との指摘については教員会議でコンセンサスをとりながら調整したいと思います。

科目名：卒業研究（看護学科第4学年通年／必修）

履修者数：63 配付数：63 回収数：24 回収率：38.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.7	4.3	4.3	3.9	3.6	3.6	3.8

＊評価に対するコメント

卒業研究 担当教員

ほぼ9か月をかけて、テーマ決定からデータ収集、分析、そして研究発表会の成果公表と学習を積み重ねていました。臨地実習、就職活動と並行して研究を進めることの困難を乗り越え、各人が誠実に課題に取り組んでいました。卒業後の皆さんが看護研究に取り組む基盤となる科目であり、ぜひここでの学びを生かしてもらいたいです。科目満足度は3.8（回収率38.1%）であり、自由記載でいただいた意見は次年度の改善に役立てたいと思います。

## 実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。
	問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。
	問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。
	問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。
	問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。
	問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。
	問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。
	問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。
	問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。
	問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。
	問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。
	問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。
	問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。
	問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強く思う                      （非常に良い）  
 ④ やや思う                     （良い）  
 ③ どちらとも言えない       （普通）  
 ② あまりそう思わない       （あまり良くない）  
 ① 全くそう思わない         （良くない）

科目名：統計学実習（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：106    配付数：106    回収数：18    回収率：17.0%

### \*評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.7	4.9	3.9	4.1	4.6	4.2	4.3	3.7	4.2	4.4	3.8	3.9	4.2	3.8	3.8	4.5	4.4	4.1

### \*評価に対するコメント

統計学実習 担当教員

In a questionnaire of the previous fiscal year, there was a request for statistics of biological and medical data, which is necessary for an upper grade. In this fiscal year with the improvement of the contents, we have gained a good evaluation. During the practical training, we also taught the purpose, intention, and important points of the tasks; however, many students could not improve the contents of reports sufficiently. To improve this problem, the same guidance was repeated every time. As a result, some requests from students who learned well and got good results were a proposal that they should try to learn new themes. Since a number of students have little motivation to learn and insufficient mastery of related subjects in the previous term, we would like to improve these problems in the next fiscal year.

科目名：基礎化学実習（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：106 配付数：106 回収数：22 回収率：20.8%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	5.0	4.8	4.3	4.4	4.2	4.2	3.9	4.2	4.5	4.3	4.2	3.0	3.3	4.0	4.5	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

基礎化学実習 担当教員

他の実習とは異なり、基礎化学実習では反応性の高い危険な試薬を用いた実験を行います。1年生の皆さんは化学薬品やガラス器具・秤量／測定機器の取り扱いに慣れていませんので、実験前に行う1.5～2時間程度のガイダンスを中心として実習全体で安全教育（試薬の扱いや化学物質の廃棄の仕方、器具の扱い方、万が一事故が起きたときの対処方法など）と秤量／測定機器の取り扱いを実施しています。さらに基礎化学実習では自然科学に取り組む基本的な態度を学習する機会でもあり、これも十分に説明しています。自然科学に取り組む態度としてレポート提出はとても重要です。授業評価の項目の中でレポートの内容や量が適切ではなかったのではないかという評価が寄せられました。皆さんには常識的な範囲でレポート提出を課しています。また、レポート最終提出締切が試験期間内に設定されていることを問題視するコメントが寄せられましたが、実習の中で最終提出締切に全てのテーマのレポートを提出するのではなく、コンスタントにレポート提出することの重要性について複数回説明しました。実際にコンスタントにレポート提出をした方が複数名いましたので、全く的外れなコメントと言わざるを得ません。医学部は他学部より短い時間で、多くのことを学習しなければならないという現実をよく理解して行動しましょう。

科目名：心理・コミュニケーション実習（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：106 配付数：106 回収数：101 回収率：95.3%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.7	4.8	4.5	4.2	4.5	4.2	4.3	4.1	4.1	4.0	3.8	3.9	3.6	4.0	4.1	4.2	4.1	4.0

＊評価に対するコメント

心理・コミュニケーション実習 担当教員

本実習は、心理学実習、模擬患者実習、および、介護施設でのユマニチュード実習により構成されている。本年度の評価は昨年度とほぼ同様であり、学生の満足度が4.0、実習全般の評価が3.9-4.3、学生自身の受講態度が4.5と全般的に高い値となった。一方、レポートの分量についての評価は前年度と同様に3.6と低い結果となった。この原因としては、心理学実習のレポート課題の負担が大きすぎたことが考えられる。また、自由記載欄では、介護施設におけるユマニチュード実習の時期や移動の負担等について否定的な意見が見受けられた。これらの点について今後改善を検討する必要があると思われる。

科目名：形態学実習Ⅱ（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：63 回収率：52.9%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.5	4.7	4.7	4.7	4.7	4.0	4.3	4.0	4.4	4.5	4.4	4.4	4.2	4.7	4.5	4.5	4.5	4.7

＊評価に対するコメント

形態学実習Ⅱ 担当教員

全般的には例年通りの評価を得ていると考えている。教員の人数が少ない、また、教員間の連携が不足との不満が多少日につく。学生の人数が増えている中で、教員が限られているので、仕方ない面もある。AV教材の充実も含めて努力していくが、学生自身の努力も期待する

科目名：医療社会学実習（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：98 回収率：82.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.9	4.5	3.9	3.5	3.9	3.3	3.3	3.2	3.3	3.3	3.2	3.3	3.0	2.9	3.4	3.7	3.5	2.9

＊評価に対するコメント

医療社会学実習 担当教員

医療社会学実習は、授業時間外に質的調査に取り組む実習です。ほとんどのグループが授業時間外の調査を着実に進めたと評価しています。今後も、質的調査の重要性への理解が深まるような実習を行いたいと考えています。実習自体へのコメントではないのですが、第2学年で質的調査に集中して取り組むことが難しいという意見もありました。教育課程の全体に関わることで対応することは難しいですが、貴重な意見として受けとめています。

科目名：自然科学実験（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：55 回収率：91.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.9	4.6	4.1	3.1	3.8	4.0	3.9	3.9	4.1	3.5	3.3	2.8	3.0	4.0	4.4	3.6	3.4

＊評価に対するコメント

自然科学実験 担当教員

総合評価（問18）が0.3低下しただけでなく、全体的に昨年度より低めの評価となった。しかし、問1?3は0.1?0.2上昇していたことから、学生の取り組みには積極性が増していた。具体的コメントは、昨年に続き「時間内に実習が終わらない」というコメントが複数あった。このことに関して「薬品などを安全に取り扱う慎重さを学ぶだけでなく、正確なデータを確保する重要性を理解する」ことが学習ポイントの一つと考えているからである。実験内容に関しては、どの分野でも楽しい内容であったと評価するコメントもあった。

科目名：生体観察実習（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：18 回収率：30.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.9	4.7	4.2	4.4	4.4	4.6	4.3	4.5	4.2	4.1	4.3	4.3	4.4	4.2	4.7	4.2	4.6

＊評価に対するコメント

生体観察実習 担当教員

生体観察実習の評価は例年と大差ないものとなった。回答の傾向も変わりがないので例年通りの評価とは思われるが、回答率が低い課題等が見えづらい結果となっている点は注意しておきたい。実習資料の配布は数年前よりネット配信としているが、印刷物が配布されると誤解した学生が不満として意見をあげていた。manabaの導入により資料のネット配信は当たり前になりつつあるが、周知徹底を図りたい。

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：58 回収率：95.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.8	4.8	4.8	4.8	4.5	4.3	4.6	4.1	4.7	4.6	4.0	4.1	2.7	4.1	4.4	4.5	3.6	4.2

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅱ 担当教員

予習・出席・講義態度などの評価は高く、教員と一致するところです。課題の量・内容に関して2.7という評価でした。教員も課題が多いと認識しています。しかし、国家試験受験資格を得るための学習目標を変えることはできず、一定量の学習が求められます。事前学習・講義演習・事後学習による学習の有効性は学生の皆さんも理解していることと思います。今後、方法や提出のタイミング等を検討していきたいです。また、今年度よりmanabaコンテンツとして動画を取り入れました。学習に効果的であったと多数の自由記載がありました。今後コンテンツを増やしていきたいです。

科目名：実践看護技術学Ⅱ（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：13 回収率：22.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.8	5.0	4.8	4.4	4.4	4.1	4.2	3.1	4.0	4.1	4.2	4.0	3.9	4.2	4.1	4.3	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅱ 担当教員

全体評価が高く、特に自己学習面に関しての評価が4.8、積極的参加が4.9と高い特徴がありました。多くの学生が受け身ではなく、主体的に学習を積重ねて看護実践能力を高めていけたのではないかと評価します。この演習は3年生後期からの臨地実習と関連性があり、今後は実践看護技術学Ⅱで獲得した技術が、臨地実習においても活用できたかどうかを見る評価指標の検討を考えています。

臨地看護実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実 習 内 容	実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 実習中に課された記録・提出物の量は適切であった。 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実 習 環 境	教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総 合 評 価	実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う （非常に良い）
- ④ やや思う （良い）
- ③ どちらとも言えない （普通）
- ② あまりそう思わない （あまり良くない）
- ① 全くそう思わない （良くない）

科目名：基礎看護学実習Ⅱ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：37 回収率：61.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.4	4.0	4.2	4.4	4.4	4.2	4.2	4.4	4.3	4.6	4.5	4.3

＊評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅱ 担当教員

全項目4.0以上の評価で学生の皆さんにとって充実した実習であったことを担当教員一同嬉しく思います。自由記載では、2例目の受け持ち患者に関して統一した指導を求める声がありました。2例目の患者を受け持った場合は、残りの実習期間等により1例目の患者とは実習方法（特に提出物の内容）が異なります。このことに関しては、ガイダンスで説明した通りです。状況の詳細がわからないのですが、困ったことなどがあれば、実習中に相談があると説明など対応ができたと思います。回収率が例年より低いことが気になります。初めてmanabaで授業評価を行い、若干の混乱がありました。回収率への影響も含め関係部門と検討していきたいと思ひます。



## 卒業生の動向(医学科)

平成31年3月25日（月）に本学を卒業した学生の進路状況は次のとおりです。  
 なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

(学生支援課)

区 分	大学及び病院名等	平成30年度卒業生			
		男	女	計	
進 学	小 計	0	0	0	
就 職	道 内	本院(旭川医科大学病院)	24	13	37
		北海道大学病院	1	1	2
		その他	27	11	38
		計	52	25	77
	道 外	大学関係病院	4	0	4
		その他	22	12	34
		計	26	12	38
小 計		78	37	115	
未 定・その他		14	4	18	
合 計		92	41	133	

### 上記以外の病院名

道 内：市立旭川病院、旭川赤十字病院、旭川厚生病院、旭川医療センター、  
 名寄市立総合病院、北見赤十字病院、岩見沢市立総合病院、帯広厚生病院、  
 札幌医科大学附属病院、北海道医療センター、KKR札幌医療センター、市立札幌病院、  
 札幌厚生病院、NTT東日本札幌病院、勤医協中央病院、札幌東徳洲会病院、  
 製鉄記念室蘭病院、日鋼記念病院、恵み野病院、函館病院

道 外：東京大学附属病院、奈良県立医科大学附属病院、神戸大学医学部附属病院、  
 秋田赤十字病院、信州上田医療センター、茨城西南医療センター病院、さいたま市立病院、  
 亀田総合病院、新久喜総合病院、東京都保健医療公社 大久保病院、東京都立大塚病院、  
 東京都立駒込病院、東大和病院、横浜医療センター、済生会横浜市南部病院、藤沢市民病院、  
 平塚市民病院、湘南東部総合病院、湘南藤沢徳洲会病院、湘南鎌倉総合病院、  
 総合病院南生協病院、静岡赤十字病院、刈谷豊田総合病院、岐阜市民病院、  
 岐阜県総合医療センター、聖隷浜松病院、千船病院、上尾中央総合病院、滋賀県立総合病院、  
 京都第一赤十字病院、近江八幡市立総合医療センター、淀川キリスト教病院、倉敷中央病院、  
 三田市民病院、沖縄中部徳洲会病院、沖縄南部徳洲会病院

## 卒業生の動向(看護学科)

平成31年3月25日（月）に本学を卒業した学生の進路状況は次のとおりです。  
 なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

(学生支援課)

区 分		大学及び病院名等	平成30年度卒業生			
			男	女	計	
進 学	道 内		0	1	1	
	小 計		0	0	1	
就 職	道 内	看護師	本院(旭川医科大学病院)	1	26	27
			北海道大学病院	1	5	6
			札幌厚生病院	0	2	2
			その他	0	11	11
		保健師	地方自治体	0	9	9
		助産師	本院(旭川医科大学病院)	0	2	2
			その他	0	3	3
	計		2	58	60	
	道 外	看護師	大学関係病院	0	0	0
			その他	0	2	2
		保健師		0	0	0
		助産師		0	0	0
		計		0	2	2
	小 計			2	60	62
未 定・その他			0	0	0	
合 計			2	60	63	

### 上記以外の病院名および自治体名

道 内：KKR札幌医療センター、手稲溪仁会病院、慶愛病院、帯広厚生病院、札幌徳洲会病院、  
 産科婦人科病院、滝川市立病院、山の上病院、八雲総合病院、  
 札幌市、苫小牧市、滝川市、帯広市、美瑛町、増毛町、初山別村、西興部村、名寄保健所

道 外：横浜市立市民病院、東京臨海病院

## 飲酒事故の防止について

6月7日(金)から医大祭が開催されるにあたり、普段よりも飲酒の機会が増えることと思われます。

従来から、学生団体代表者に対して、飲酒事故の防止について指導を行っていますが、部活動単位での飲み会に限らず、短時間に大量のアルコールを摂取することによる急性アルコール中毒を引き起こしたり、嘔吐物による窒息死を招いたりするような、危険な飲み方は絶対にしないでください。

また、アパート等での深夜に及ぶ騒音等により、大学に苦情が寄せられていますので、近隣住民に迷惑をかけないように、医大生としての自覚と責任を持って、節度ある行動を心がけてください。

このような行為が認められた場合は、懲戒処分（訓告、停学、退学）の対象として、大学として厳正に対処します。

## 教 員 の 異 動

平成31年3月31日	定年退職	医学部生化学講座(機能分子科学分野)	教授	鈴木	裕
平成31年3月31日	定年退職	医学部生命科学	教授	林	要喜知
平成31年3月31日	退職	教育研究推進センター	准教授	藤倉	大輔
平成31年3月31日	退職	医学部病理学講座(免疫病理分野)	講師	青木	直子
平成31年3月31日	退職	病院第三内科	講師	生田	克哉
平成31年3月31日	退職	病院外科(肝胆膵・移植)講師	講師	川原	敏靖
平成31年4月1日	昇任	医学部病理学講座(免疫病理分野)	准教授	大栗	敬幸
平成31年4月1日	昇任	病院手術部	准教授	黒澤	温
平成31年4月1日	昇任	医学部病理学講座(免疫病理分野)	講師	長門	利純
平成31年4月1日	昇任	病院第三内科	講師	澤田	康司
平成31年4月1日	昇任	病院外科(心臓大血管)	講師	石川	成津矢
平成31年4月1日	昇任	医学部放射線医学講座	講師	中山	理寛
平成31年4月1日	採用	医学部外科学講座 (肝胆膵・移植外科学分野)	准教授	横尾	英樹
平成31年4月1日	配置換	病院外科(肝胆膵・移植)	講師	松野	直徒
平成31年4月1日	配置換	病院手術部	講師	小野寺	美子

## 今後のスケジュール

- 6月7日(金)～9日(日) 医大祭
- 6月30日(日)～7月28日(日) 第66回(令和元年度)北海道地区大学体育大会
- 【競技日程】
- 6月30日(日) 陸上競技大会(岩見沢市東山公園陸上競技場)  
※男子のみ
- 7月7日(日) 剣道大会(帯広畜産大学体育館)  
※男子のみ
- 7月13日(土) バドミントン大会(北海道教育大学岩見沢校)  
※男子のみ
- 7月20日(土) 弓道大会(留辺蘂町弓道館及び体育館)  
※男子のみ
- 7月20日(土)・21日(日)  
バスケットボール大会  
(和寒町総合体育館, 忠和公園体育館)
- ” バレーボール大会(室蘭工業大学体育館)
- 7月13日(土)～14日(日) 医学科第6学年 臨床実習後O S C E

### 夏季休業

医学科第1学年～第3学年	7月15日(月)～8月16日(金)
医学科第4学年	7月29日(月)～8月23日(金)
医学科第5学年	7月29日(月)～8月30日(金) 8月12日(月)～9月13日(金)
医学科第6学年	7月15日(月)～8月30日(金)
看護学科第1学年	7月15日(月)～8月16日(金)
看護学科第2学年	7月8日(月)～8月16日(金)
看護学科第3学年、看護学科第4学年	7月15日(月)～8月16日(金)

## 第175号表紙

今月号の写真の表紙は、医学科第4学年の学生さんから提供いただきました。洞爺湖の湖畔に全58基の彫刻やオブジェを配する「とうや湖ぐるっと彫刻公園」。自然と彫刻アートを楽しみながらのんびりと散策してみたいですね。学生支援課では、皆さんからの写真を募集しています。課外活動での様子、旅先での1枚など気軽に応募してください。ご提供いただける方は、学生支援課学生総務係までご連絡ください。